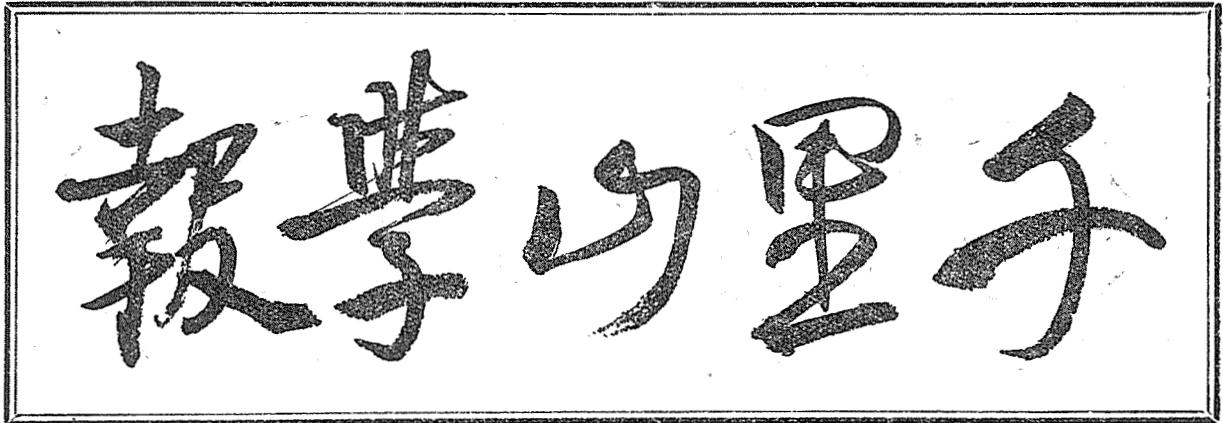



The Kansai University Bulletin

Osaka, May 15th, 1924—No. 19



行發日五十月五 ARTS INAUGURATION NUMBER 年三十正大

開
講
記
念
號



YALE UNIVERSITY
NEW HAVEN, CONNECTICUT

Office of the Secretary

March 6, 1924.

To the Board of Trustees and
Members of the Faculties of
Kansai University,
Osaka, Japan.

Gentlemen:-

On behalf of the President and Fellows of Yale University I have the honor to congratulate your institution on the establishment of its Faculty of Literature.

In the brilliant history of Kansai University it has produced four thousand graduates from the Faculties of Law, Economics and Commerce who have added to the justly celebrated achievements of Japan in those fields of endeavor. Our University records with satisfaction the development of a Faculty of Literature which will take its place with the other Faculties which have been so long successfully established. We wish at this time to express to you our interest in your University, and in the development of ever more friendly relations between Japan and the United States.

With deep respect, believe me,
Very truly yours,
W. A. D. Raymond

文祝るす對に講開科學文學本るたれらせ寄りよ學大ルー工

專
門
部
文
學
科

阪 大

堀 佐 土 話 電
番〇七五五・九四〇一

局 報 學 學 大 西 關

座 口 金 貯 替 振
番 五 七 八 二 一 阪 大

號 九 十 第

千里山學報 第十九號

目次

挿繪——エール大學より寄せられたる本學の文學科開講に對する祝文(表紙)——ヘーゲル、同天
 人並にフィヒテの墓——ジョン・ステュアート・ミ
 ルの肖像——中央亭に於ける本學教授講師招待會
 ——大學豫科入學式記念攝影——學生生活參考品展
 覽會——社會科學研究會のカント晚餐會記念攝影
 (その一)——同(その二)——文學科開講式記念攝影
 (その一)——同(その二)——西村勝太郎氏
 新學年開始に際して

關西大學總理事 山岡順太郎
 ロリア教授訪問記(二)

關西大學教授 岩崎 卯一
 學内報——大學豫科入學試驗施行——文學科入學試
 驗施行——教授講師招待會——第一期授業開始——
 新學年始業式、入學式並に宣誓式舉行——學部新
 入學者科別人員表——學生生活參考品展覽會——社
 會科學研究會のカント記念晚餐會——文學科開講
 式舉行——教員囑任——ビッケル氏からの來信——織
 田顧問の渡歐——森下留學生の學位受領——柿崎專
 務理事の病氣全快——本學第二商業學校新設——本
 學フランス會の新設——衆議院議員に當選せる本
 學實際關係者

校友の面影——和田相也氏と吉田音松氏
 校友彙報
 文明は衰退しつつありや

シトニー・ウェツプ、ラススキ
 ー、パートル、ド・ラッセル
 本學擴張基金寄附申込者芳名
 學生彙報——雜錄——新刊紹介

新學年開始に際して

(本學年度入學式式辭摘錄)

關西大學總理事 山岡順太郎

本日ここに、在學生諸君と共に、英氣
 勃勃たる三百有餘の學生諸君を、新に
 この學園に迎へ得たことは、私の最も
 欣快とするところ
 である。

らざることを意味するは勿論、又その
 智能に於て、その體力に於て、更にそ
 の境遇に於て大學教育を受くべき資格

言ふまでもないこ
 とであるが、大學
 なるものは總ての
 人に向つて開放さ
 れてゐるものでは
 ない。即ち、大學
 が總てに向つてそ
 の學門を開放する
 と云ふことは誠に
 望ましいことであ
 るが、然しながら、
 精神的又は肉體的
 に缺陷ある者、或
 は遊惰者に對して
 まで、その入るを
 許すべきであると
 は言ひ得ない。これ
 を逆に解釋するな
 らば、諸君が多數人
 の中から特に選ば
 れて、今日から本學
 に於て學び得ると
 云ふことは、諸君の
 懶惰遊佚の徒にあ

TO THE FRESHMEN!

Well begun is half won. If you
 can pass through the first term at the
 University without being dropped for poor
 work or placed on probation, it is proof
 positive that you are not lacking in
 ability to finish a entire course in a
 creditable manner and the probabilities
 are that you will. But, unfortunately,
 fellows with plenty of ability often fail
 because they don't get started right.

を、十分に備へてゐることを意味する
 のである。この意味に於て、私は一層
 諸君を祝福して已まぬ次第である。
 然し、これと同時に言つて置きたいの

は、かくの如くにして選ばれた諸君に
 は、同時に、又それに相當するだけの
 責任が生ずると云ふことを、先づ念頭
 に置いて欲しいと云ふことである。即
 ち、諸君が、今言つた通り、選ばれた
 人達であるだけ、それに對する社會的
 評價を裏切らないやうに心がけられ
 ばならぬのは勿論、更に大學の業を卒
 へた後、社會に出でて多くの人達を指
 導すべき使命を持つてゐるのであるか
 ら、この使命を遂行するに足るだけの
 基礎を、今後の學生生活の間に築き上
 げて置かなければならぬと云ふ責任を
 有するのである。この點を深く腦裡に
 印して、一層自重せられるやう、この
 機會に特に希望する次第である。
 大學に入るべき豫備教育を授くる機關
 としては、高等學校の如く、全然大學
 そのものと離れて存在するものと、本
 學に入學せられた諸君の場合の如く、
 大學の中に於て、この教育を授けるも
 のと二種あるのであるが、學問的氣風
 を味ふ機會をより多く有すると云ふ意
 味に於て、勿論後者が優つてゐると言
 はなければならぬのである。この點
 に關しても、私は諸君の恵まれたる今
 日よりの生活を、深く祝福するもので
 ある。
 尚ほ諸君が、今後この學園に學ぶ上に
 於て、心がけて欲しいと思ふ點は少か

らすあるが、それは今後屢述べる機会があることと思ふものであり、又諸君自らが、自づと體得せられる機会が多あることと思ふ。ここで特に申し述べて置きたいことは、本學の學歌中に高調されてゐる三點、即ち

第一には、本學の「長き歴史」をして益榮あるものたらしめること、

第二には、本學の「重き使命」の遂行に力を致されたいこと、

第三に、かくして本學の「高き權威」を、いやが上にも發揮するやう心がけられたいことこれである。

次に、無事豫備教育を終つて、更に學問の蘊奥を究めるため、本日から愈學部に入られる諸君に一言したい。

諸君は、このたび學部に進むに當つて、各その個性に應じて、それぞれ志望する専門の部門を選ばれたのであるから、従來と異り、その趣味なり必要なりに従つて、研鑽の功を積まれる譯であるが、特に豫科時代と異なるのは、一層自主的研究が必要であると云ふ點である。

言ふまでもなく、諸君の指導者は、教授講師諸氏であるが、只管これのみに頼つて、他力的態度をとるのでは到底諸君の目的が達成され得るものではない。諸君が日常親むべきは、書籍その

他の研究材料である。而してこの材料を如何に諸君の研學に利用すべきかと云ふことは、最も多く諸君の自主的態度にかかるといふものであることを、念慮されんことを希望するものである。

最後に、従來からの在學生諸君に一言したいと思ふ。諸君は、今日多くの、謂はば弟分を迎へられたのであるから、従つて、その兄分として、親切と誠意とを以てこれが指導誘掖に當られ、新舊相合して、以て本學の學風を一層發輝せられんことを希望して已まないものである。

外遊記

ロシア教授訪問記(二)

關西大學教授
ドクトル・オウ
フリクトル・ワイ
岩崎 卯一

ロシア教授の談話はなかなか盡きず、暮れ易き南歐晩秋の夕陽は、分秒毎に光線を弱め、教授の書齋稍薄暗くなりしも歸る機會を得ず當惑仕候。されど、ロシア教授は一八五七年の生れなれば、今年六十六歳の老齡なるべく、これを思へば、同教授と再會の機會あるや否やも疑はしく、或はこれが地上に於ける最初にして、而も最後の知遇なるやも知れず、従つて與へられたる機會は最もよく利用すべしと考へ、再び腰を落付け申候。

『將來に於ける經濟學の進路方向如何』と探りを入れ候。經濟學は早くも行き詰れり云ふ悲嘆に似たる聲を聞くこと、近來の如く甚きは稀に候。ベルリンに於て、パリに於て、ス井スに於て、今回の旅行中小生が面會の機を得たる經濟學專攻の若き留學生達は、異口同音に傳統經濟學の破産を語り、或人は哲學に、或人は心理學に、或人は社會學に、破産救済の方法を見出さん云ふ腐慮焦心せられつつあり候。これ等の眞理を追及せる若き學徒達の學の悶へミ學の惱みミに對し、この老大家は、この點に於て、如何なる見解を有せらるるやを知らんミするものが、前述の如き質問を發したる動機に候。然るにこれに對するロシア教授の答辯は、小生に意外の感と與へ候。

『將來のことは神のみ知り給ふ。然し、如何に進むであらうと云ふことは、如何に進まねばならぬと云ふことは、根柢に於て相違がある。それで、經濟學は如何なる方向に進むであらうと云ふことに就て明確な豫言をすることは無論出来ない。が現状から推測して、或程度の Probabilté は述べることが出来る。經濟學は如何に進まねばならぬか云ふ問題になれば、これは各自の主觀的價值批判、主觀的理想の問題であるから、俄に斷言することは出来ない。』

第一の蓋然性としての經濟學の將來を觀測しこれから主流を見出すならば、それは『傳統經濟學の復活』と云ふ文句で纏めることが出来るであらう。多くの經濟學者が、哲學に、數學に、物理學に、心理學に、社會學に、或は歴史學に、傳統經濟學を打破する道具を發見せんミ腐心せる折、私がこの言をなせば、定めし皆を驚かせるであらう。社會主義的經濟學の文獻に深き興味を有し、これが研究に半生を費したる自分、傳統經濟學の大殿堂を崩壊せんミ晩年を Adam Smith の Ricardo の研究に没頭した自分、その自分が、この言葉を發することは、自分の努力の無効なりしことを自白するやうなものだが、事實であるから致方がない。アダム・スミスは、近世經濟學の父であり、リカドがその中興の主であつたことは、經濟學史上の一事例である許りでなく、彼等の驚くべき智能の表現結晶は今日に於ても、残つてゐる。残つてゐるどころが、いよいよ光つて來てゐる。若しも一世紀前に發表された彼等の經濟學説が、未だ磨きのかからない金剛石であるとしたならば、その金剛石は、或は歴史學派と稱する職人、或は社會主義學派と云ふ職人(正確に言へば、この二者は同一の學派である)、或は數理學派と稱する職人、更に最近には、心理學派と稱する新職人及び哲學派と稱する貴族職人の手にかかつて、磨きの上に磨きをかけられたのである。無論、或一角はこの職人、他の一角はあの職人に依つて、削り取られたけれども、これは外部の僅かな汚點で、中心は少しも毀損されてはゐない。英國そのものの基礎が固いやうに、英國に生れ、英國で成育した傳統經濟學の基礎は、驚くべき程強固である。然しながら、經濟學は、經濟學者が所謂經濟現象なりミ假定した特殊な社會現象の科學的研究、即ち歸納的方法を以て研究した結果により、築き上げられたものであるから、その經濟現象の空間的及び時間的變化によつて、

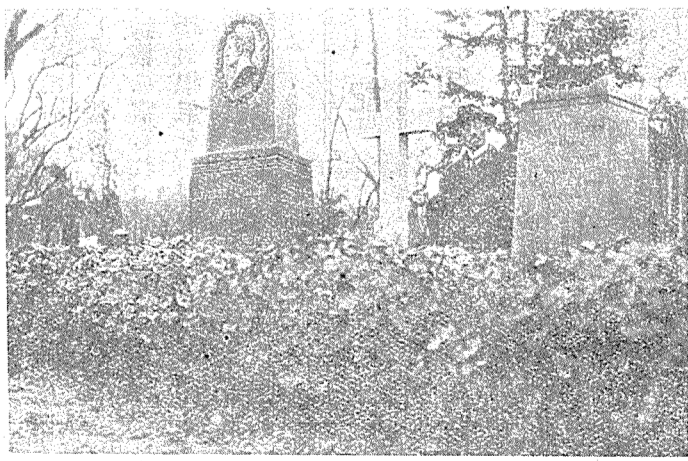
經濟學の内容に變化を來すことは當然である。社會事象は常に流轉の姿のそれである。従つて、經濟學もこの流轉の常相に引きずられて、進化の跡を示して行く。だが、アダム・スミスが經濟現象の研究に就て執つた歸納的研究方法は、如何に現象そのものが變化しても、ただ一つであらねばならぬ。經濟學が科學である限り、方法論は何時までも歸納的であらねばならぬ。この意味に於て、所謂經濟學上の心理學派と稱する人人の研究には共鳴することが出来ない。心理學派——英國の Jevons に始まり、オーストリーに珍らしくも榮へた一種の形而上學派、Karl Menger, Böhm-Bawerk, Zuckerkandl の如き老大家の Philipovich, Grunzel, Schullien, Grünberg に至る有爲な學者の群——の限界效用説の如き學説は、一種の形而上學説である。社會現象よりも、個人現象により多くの注意を拂ひ、その個人現象中の極く小部分を捉へ來り、これに一種の法則を見出し、これに依つて、經濟學説の根本的改造を企圖したり、經濟學史上最大の學的業績の如く自惚れることは、苦しいことである。

『來るべき經濟學説は、傳統經濟學を、歴史的統計的研究方法により訂正して行くそれであるであらう。如何に努力しても、畢竟訂正である。改造の如きは不可能であるを信する。自分は傳統經濟學研究に志してから四十年、惡戦苦闘を重ねたが、結局、初めの傳統經濟學に戻つて來た。今後私が何年生きるか知れないけれども、私の眼の前に展開して行く世界經濟學は、傳統經濟學の發展であらう。』
ここまで教授の熱の籠つた談話が繼續して來

た時、階下の時計は三時半を傳へる數個の斷音を、この靜寂な書齋まで運び來り候。小生はいよいよ辭すべき時と思ひ、腰を持ち上げんせし時、教授は、小生が永く留學せし米國の經濟學界の近狀を質問され候。小生は御承知の如く、純理社會學研究の學徒にして、經濟學に就ては、全くの門外漢なれば、答に窮し、經濟學の近狀はなるべく避けて、社會學の近狀に就き出來る丈け簡單に答辯致候。

オリア教授はユダヤ人に候。ユダヤ人にして經濟學者たるオリア教授の風姿に接し、その談話を傾聽し、その頭腦の明晰にして智識の該博なるを感嘆し、且つその經濟學に於ける立場を知るに及んで、小生の記憶中に浮び出づる一個のユダヤ人系學者の姿は、小生がコロンビア大學在學中、屢面會するの機會を得し、かの Thomsen Vebien 教授に候。イタリアのオリア教授は、ユダヤ人の反逆の血潮を多量に藏しつつも、資本主義が未だ餘りに暴威を振はざりしイタリアに生を享け、イタリア大學にて教育を受け、イタリア大學の教授となり

ため、その反資本主義的傾向、社會主義的臭味が極めて濃厚なるに拘らず、トリノ大學に於ける地位は極めて安固なるのみならず、遂に勅選議員として上院に祭り込まれる幸運に見舞はれ、米國のウェブリン教授は、同じくユダヤの選民の血を享け、該博なる智識、深刻なる獨創的批判能力を有する學界の偉材なるに拘らず、資本主義の暴威その極に達せる米國大學に、生活の資源を得んこせしたため、その反資本主義的學説は、各米國大學の半政治家的總長の嫌惡するところとなり



(りよ左てつ向)墓のテヒィフに並人夫同・ルゲーへ
氏嗣典岡村授教學大北東はるて立に間中

するところとなり到るころの大學より追放され、氣の毒なる生活をなし居らるるの對照し、一種悲壯の感に打たれ候。瘠せて丈の高きころ、顔に一種の深刻味を藏せるころ、眼瞼が比較的鋭きころ、談り振りが禪僧の説教に似たるころ、一見すれば兄弟にあらざるやと思はれ候。されきよく見れば、オリア教授の顔には、順調なる境遇が齎す得意な柔和さが、ユダヤ人の深刻味を潤色し、ウェブリン教授の顔には、逆境に處して惡戦苦闘したる跡を示す深刻なる皺が、縦横に走れるを見出すべく候。

小生はウェブリン教授に就て簡單に語り候。同教授は十箇年奉職したる The University of Chicago を追はれた後、「學者の自由米國の大學」に就て、一個の堂堂たる彈劾的著述をなして、米國一流大學に挑戦し、爾來同教授の機關雜誌「The Dial」にて、深奥なる社會心理學的經濟學説を發表しつつありしが、數年前よりニューヨークにある「The New School of Sciences」に教鞭を執り居られる旨を語りたるころ、オリア教授は興味を以て聽かれ候。同教授の代表的著述は何かと云ふオリア教授の質問により、小生は嘗て在米中寢食を廢して耽讀したる左の三個の著述を以て答へ候。

The Theory of the Leisure Class (1899)
The Instincts of Workmanship (1914)
Vested Interests (1920)……………註參照
それよりオリア教授と小生の談話の題目はイタリア近時の政時問題に移轉致し候。戦後イタリアは、極端なる左傾運動が成功して、所謂社會主義者の工場占領となりしも、長く續かず、今又極端なる右傾運動が效を奏して所謂國家主義者の獨裁政治となり、今日も尚ほその狀態繼續せるが、この點に關するオリア教授の見解を質し候。

『今日イタリアは、近世國家としては殆ど異例に屬する反動政治を敢行しつつあるやうに見へる。ファシストなる一個の政治團體が、偉材ムッソリニの指導の下に、内に於ては社會主義を壓迫して軍國主義を鼓吹し、外に對しては帝國主義を標榜してイタリアの利權を擁護し、暴虐飽くなきが如く見へる。然し、詳細に調査研究すれば、本當の事實は、外觀

の如く簡單明瞭ではない。極めて複雑多様である。戦後、イタリーは數次の内閣更迭を見たが、どれも微弱で、永續しなかつた。ミコロに、ロシアの魔手がイタリーに延びて、イタリー社會主義者の工場及び土地占領運動となつた。暫くの間は、イタリーは露國モスコに主都を移し、労働者の黄金時代が到来したやうに見へた。ミコロが、これは一時の蜃氣樓に過ぎなかつた。間もなく、恐るべき反動が來た。イタリー第一主義言ふか、或は新愛國主義でも言ふか、神秘主義の哲學愛國主義の情緒も、資本主義者の黄金力も相合致して、調製されたファシズムなるものが生れた。而して、その指導者としては、ミケランゼロでも描きさうな精力の権化、ムツリニが君臨した。而して、國家主義、軍國主義、帝國主義の宣傳を、軍人、青年學生、労働者との間にした。

「然しながら、何と言つても、現代國家の下では、或仕事を敢行しやうと企圖すれば、労働者の援助を得なければならぬ。そこで、ファシストは、労働組合の乗取策を考へて、新にファシストの労働組合を急造した。時は恰も社會主義者が描いた、労働黄金時代の蜃氣樓が消へかかつてゐた頃であつたので、労働者は、續續今迄のイタリー労働總同盟を脱退して、國家主義的新労働組合に加入した。社會主義に指導された従來の労働組合の幹部連が、如何に説いても、工場占領の失敗、生産の減少、失業者の増加等、冷かな事實が目前に證明されてゐるので、労働者は彼等に動かされず、却つて、神秘主義に彩られ、宗教的臭味を帯びた信仰に近い、新國家主義の宣傳に酔

はされた。その結果、社會主義的労働組合の數は三分の一に減じ、ファシストの労働組合は、そのメンバー數百萬を超へ、イタリー労働組合の牛耳を握るに到つた。

『今述べたやうな状態であるから、ファシストは、全然軍國主義者や、資本主義者の獨占であるを考へてはならぬ。その背後に、大多

John Stuart Mill

歐米の著名なる學者、思想家等で、その偉大なる研究や思索の結果を、不朽のメリットとして、遠く我々に遺して呉れてゐる人で、本月、即ち五月と云ふ月に生れた人、逝つた人は少くない。英國の有名な哲學者であり、經濟學者であり、且つ論理學者でもある J. S. Mill の如き即ちその一人である。而もミルはその生れたのも五月であり、逝つたのも亦五月である。彼は、均しく哲學に於て、史學に於て、更に經濟學に於て、その息子と命名を競ふ James Mill (1773-1836) を父として、一八〇六年五月二十日、ロンドンに於て生れた。彼の教育は初め父ミルに依つて授けられ、後フランスに於て完成されたのであるが、彼は非常に早熟で、僅か十四歳にして、既に古典、論理、經濟、歴史、數理等凡ゆる學に關する相等の知識を獲得してゐたと云ふことである。彼はその智能に於て、かくも早



は、1851年彼が四十五歳の時であつた。ミルとテーラー夫人との戀物語は、彼の傳記中特に有名なものであるが、この間彼が夫人から受けた影響は實に多大なもので、その自叙傳中

は、1851年彼が四十五歳の時であつた。ミルとテーラー夫人との戀物語は、彼の傳記中特に有名なものであるが、この間彼が夫人から受けた影響は實に多大なもので、その自叙傳中

熟であつたが然し、彼の結婚は極めて晩かつた。彼が初めて相識つてから、二十年の長きに亘つて、清く、親密なる交りな續け來つたテーラー夫人 (Mrs. John Taylor) と漸く結婚したの

に、彼はこのことを強き感謝の意を含めて屢述べてゐる。彼は上記 Autobiography (1873) を初め、Essays on Unsettled Questions of Political Economy (1844), Political Economy (1848), Essays on Liberty (1859), On the Subjection of Women (1859), Nature, the Utility of Religion, and Theism (1874) 等數多の價値大なる力作を遺して一八七三年五月八日最愛の夫人の逝去の地である佛國アヴィニオン (Avignon) に於て逝つた。(挿繪はジェー・エス・ミルの肖像である)

が、今日のイタリー人の感情である。『今日のイタリーの政治状態は、確に變體で永續しないミ、自分は確信してゐる。然し、ファシストの政治になつてから、イタリーの社會不安が多少軽減されたのは事實である。この事實は、如何にファシストに反感を有する者でも承認してゐる。だから、一時の社會安定策として、無益ではなからうと思ふ。』

「オリア教授は、更に、偉傑ムツリニの人氣の素張らしきここに就て、二三の挿話を語られ候へども、ここには省略致すべく候。愈別離を告ぐべき時來れり、別れの辭と感謝の辭とを述べたるに鄭重に禮を返し、玄關まで見送られ候。

【註】ウェンレン 教授 (Wahlen, Thonstein B.) は一八八〇年、米國カールトン大學を卒業して、パチエラー・オウ・アーツの稱號を得、後暫くジョン・ホプキン大學 (Johns Hopkins University) の大學院にて、經濟學を専攻し、その後更にエール大學 (Yale University) に轉じ、一八八四年に、ドクトル・オヴ・フィロソフィーの學位を、該大學より授與せられた。

數の労働者のあることを忘れてはならぬ。社會主義者が、階級争闘を高調し、労働專制を叫べるに對し、ファシストは階級調和を力説し、國家生産力の増加に對する勞資の協力を計つてゐるのである。何れにしても、労働者は閑却すべからざる勢力である。労働者を無視しては何事も出來ぬと云ふことを、ファシ

意義な戦を始め、國力の大部分を消耗した。戦は聯合側の勝利に歸したが、イタリーは失つたものに對し何物をも酬ひられなかつた。今日のイタリー人は、働いても働いても、自國のためには何にもならぬ。労働の結果は、總て英米に對する債務の償却に吸はれてしまふ。「失へるものはその持主に還せ」と云ふの

【第二〇頁に續く】

學 內 報

大學豫科入學試驗施行

去月七日から同十二日まで、本學大學豫科入學試驗を千里山學舎に於て施行した。

文學科入學試驗施行

去月十七日午前十時から、福島學舎に於て、新設専門部文學科の入學試驗を施行した。

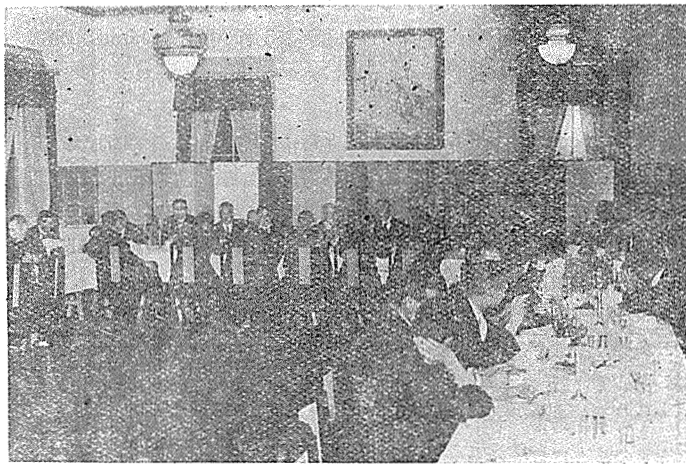
教授講師招待會

本學教授講師諸氏平常の勞を謝するため、且つ當局その他關係者との間に於ける意思の疏通をはかるため、去月十六日午後六時から、市内東區備後町二丁目野村ビルディング内中央亭に於て、教授講師招待會を催し、左記諸氏出席食卓を共にして一夕の歡談を交へた。
デザート・コースに入つて、山岡總理事當局を代表して一場の挨拶を述べ、次で谷田評議員の挨拶、上田・齋藤兩講師の當局に對する希望、内藤・廣瀬兩協議員の所感等が述べられ、九時半無事盛會裡に散會した。

出席者 (イロハ順)

- 池尾 芳 藏氏 板垣 不二男氏
- 岩崎 卯一氏 橋本 重幸氏
- 原田 鹿太郎氏 林 龍太郎氏
- 早川 祐吉氏 富田 仲次郎氏
- 戸田 省三氏 大野 新一郎氏
- 沖中 恒幸氏 和田 于一氏
- 川崎 齊一郎氏 金井 正夫氏
- 賀來 俊一氏 桂 忠雄氏

- 吉崎 龜之助氏 吉田 音松氏
- 谷田 三郎氏 武田 藏之助氏
- 高田 貞男氏 田邊 信太郎氏
- 武内 作平氏 武内 省三氏
- 垂水 善太郎氏 田川 七郎氏
- 辰巳 經世氏 中村 鄧次郎氏
- 中口 卯吉氏 中島 繁龜氏
- 内藤 正剛氏
- 村上 喜貞氏
- 植田 衆三郎氏
- 上田 操氏
- 野村 吉藏氏
- 黒田 莊次郎氏
- 山岡 順太郎氏
- 山口 房五郎氏
- 山村 番氏
- 松田 一氏
- 松崎 義盛氏
- 松村 敏夫氏
- 小泉 幸治氏
- 寺島 小五郎氏
- 安達 駿三郎氏
- 齋藤 悠輔氏
- 三田 直吉氏
- 岸田 幸雄氏
- 木下 孫一氏
- 喜多村 桂一郎氏
- 宮島 綱男氏
- 白川 朋吉氏
- 濫川 忠二郎氏
- 平松 憲夫氏
- 須藤 文吉氏
- 鈴木 富太郎氏



會待招師講授教學本るけに亭央中

第一學期授業開始

本學學部、大學豫科、専門部本科並に同豫科各學年とも、去月十八日を以て、本學年度第一學期授業を開始した。

新學年始業式・入學式 並に宣誓式舉行

去月十八日午前十一時から本學年度始業式、學部第一學年及び大學豫科第一學年入學式並に新入學生宣誓式を千里山學舎で舉行了。定刻本學教職員その他多數關係者列席、學歌合唱裡に開式し、先づ山岡總理事の歡迎の辭、新入學生總代の答辭等があり、次いで、學部新入學生總代及び大學豫科新入學生總代の各宣誓文朗讀があり、最後に全新入學生の宣誓があつて閉式した。式後、出席教職員その他關係者一同晝食の卓を共にして、各自歡談を交へ、記念撮影を済して午後一時散會した。

宣誓文 (一)

宣 誓

關西大學學部ニ進ムニ當リ更ニ覺意遵守ノ

念ヲ新ニシ益研鑽修養ニ努メ以テ本學ノ期待ニ副ハンコトヲ誓フ 依テ爰ニ姓名ヲ自署ス

大正十三年四月十八日

關西大學學部第一學年

宣誓文 (二)

宣 誓

關西大學大學豫科ニ入ルニ當リ謹テ本學建學ノ趣旨ヲ體シ以テ學生ノ本分ヲ全ウセンコトヲ誓フ 依テ爰ニ姓名ヲ自署ス

大正十三年四月十八日

關西大學大學豫科第一學年

學部新入學者特別人員數

本學年度新に學部に入學した學生數は左の通りである。

- 法學部法律學科 四八名
- 商業部商業學科 二一名
- 經濟學科 四五名

學生生活參考品展覽會

本年新入學の學生その他一般學生に、歐米に於ける所謂カレッジ・ライフの一端を伺はしめ、併せて一般人士に大學生活に對する理解を一層深からしむるの目的で、四月十八・十九の兩日に互り、千里山學舎に於いて學生生活參考品展覽會を開いた。歐米各大學の規則書、入學申込用紙、試験答案用紙、寫真帖、パンフレット、ペナント、應援團のマーク、寄宿舎のプランなご學生生活を彩る種種の資料が色とりどりに陳列せられ、殊に最近外國大學の服制を研究して歸朝した長谷爲五郎氏の出品にかかる、英米各大學の學位服、式服、

帽子等異彩を放つてゐた。

尚ほ本月はカントの生誕二百年に當るので、この大哲學者を偲ぶよすがとして、カントの肖像數種、その著書及びカントに關する多くの書籍その他をも併せ陳列して、一般の展覽に供した。

社會科學研究會の カント記念晚餐會

イマヌエル・カントの生誕二百周年に相當する去る四月二十二日午後六時から、本學社會科學研究會では、これを記念し、且つ碩學を偲ぶため、その第九回例會を兼ねて、カント記念晚餐會を、市内東區備後町二丁目野村ビルディング内中央亭に於て開催した。

會する者は、同會會員の外に、最近歐洲から歸朝せられた東北帝國大學教授村岡典嗣氏を初め、二三會員外の參會者もあり、先づ武内本學講師のカントに關する講演があつて、一同食卓を共にし、更に村岡教授の旅行談、同教授がスウェーデンに於て、往年永く日本に滞在して我學界に大に寄與するところあつた英人チェンバレン氏が、同地に老後を養ひつつあるのを訪ひ、依然として流暢なる日本語を用ひられる氏と相語つた談の如き、特に多大の興味を聽者に與へた、岩崎本學教授の外遊談——主としてイタリ旅行談——等があり、九時半頃盛會裡に閉會したが、非常にアキヤデミックな、頗る氣持の良い會合であつた。出席者は左の通りである。

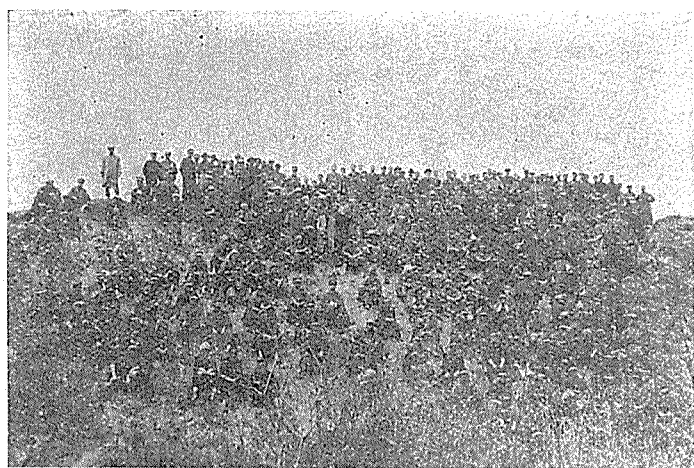
- 岩崎教授 服部教授 原田講師 早川講師
- 沖中講師 賀來講師 武内講師 武田講師
- 辰巳講師 中村教授 村岡東北大學教授
- 山村講師 小泉教授 櫻井教授 宮島教授

水谷教授 中村良之助氏 森川太郎氏

文學科開講式舉行

今回本學専門部に新設された文學科の開講式は、四月二十六日午後一時から千里山學舎に於いて舉行せられた。

定刻本學教職員、校友及び内外の名士多數參列の下に學歌の合唱があり、山岡總理事の式辭について中川大阪府知事（安原學務課長代理）、關大阪市長（村田視學代理）の祝辭代讀があつた。續いて來賓神戸駐劄佛國總領事アンドレ氏の祝辭は賀來講師これを通譯し、次に在日本佛國商業會議所副會頭ファヴリアル氏は流暢な日本語を以て一場の挨拶を試み、本山大阪毎日新聞社長、村山大阪朝日新聞社長、長岡の祝辭代讀の後、



大 學 科 新 入 學 記 念 攝 影

の辭があつて式を閉ぢ、來賓一同は式後別室で茶菓の饗應を受け歡談を交へて散會した。山岡總理事式辭
本日、ここに、本學専門部文學科の開講式を舉行するに當りまして、懇御貴臨を忝うした江湖各位に、深く感謝する次第であります。

ただ本日遙遙御參列下さる筈であつた佛・伊兩國の大使閣下が、餘儀ない事情のため御來學願へなかつたことを残念に存じます。殊に、フランス大使クローデル閣下は一昨年本學舎を訪はれ、一場の御講演を忝うしたごさのある、本學は誠に因縁からぬ方でありませう。同大使御來訪以來、約二ヶ年を経過した今日、本學の物質的設備に就ては、遺憾ながら餘り面目を新にした

ものがあることは申し得ないのであります。が、學問の方面から申しますならば、幸ひ、多少誇るに足るものがあるのであります。特に同大使が、右御來訪の節極力獎勵せられた文學科の増設が、漸くここに實現した如きは即ちその主なるものであります。従つて、若し同大使が、本日この式場に臨

まれたならば、定めし今昔の感を深うせられ、且つ私共その喜びを俱にして下さつたでありませう。この意味に於て、同大使の御差支を一層遺憾に存する次第であります。今回文學科を増設した理由につきましては、既に屢本學の名を以て、江湖に發表したところでありませうから、今更繰返して申上けることを避け、簡単に要約致します。次の二點に歸着する言ふことが出来ると思ふのであります。

即ち、その第一は、一般的理由でも申しませうか、獨り本學に限らず、如何なる種類の大學に致しましても、又専門學校に致しましても、常に文學に關する教育が育成並に研究の根柢をなさなければならぬ言ふことでもあります。このことは、歐米各大學の歴史が、均しく證據立ててゐるところであります。殊に綜合大學に取つては、その基調として、その方礎として、眞の人間教育唯一の手段とも言ふべき文學科の施設が、必要缺くべからざるものである言ふことは、申すまでもないことでもあります。これ即ち、本學が、幸ひにも江湖各位の御同情を、御援助の下に、着着として綜合大學たるの實を擧げんき努力しつつある際に當り、その必須條件たる文學科の増設を企てた所以でありまして、本日ここに漸くその希望の一端を實現するに至つた次第であります。

第二は、これを特殊的理由でも申しませうか、言葉を変へて申上けるならば、地理的及び歴史的關係から觀て、本學に文學科の施設を要する言ふことが、更に特別の理

由を有するのであります。

申すまでもなく關西殊に我大阪の地は、實に我國固有文學の發生地であり、又我國古典に關しては、大に誇るべき歴史を有してゐるのであります。然るに、この地に於て、文學に關する教育機關が、從來一つもなかつたと言ふことは、私共の常に深く遺憾とするところであつたのであります。これ即ち、特に本學が、新に文學科を設置致しまして、この大阪をして、獨り經濟的にばかりでなく、精神的にも亦その全きを期せしめんとする所以であります。

尙ほその他の具體的理由に就ては、ここに一一列擧するの煩を避けませんが、兎に角これ等の理由の下に、文學科を新設し、本學が國家文教に對する貢獻に、更に一步を進め得べきことは、私共の最も欣快とするところであります。

次に、新にこの文學科に入學せられた諸子に一言致しますが、歴史は、小さく言へば後進者、大きく言へば次の時代に、その反映を與へるものであります。諸子は、實に我關西大學文學科の歴史の第一頁に、その足跡を印すべき人達でありますから、その使命も亦従つて重大であることを念頭に置き、大に自重奮勵せられんことを希望する次第であります。

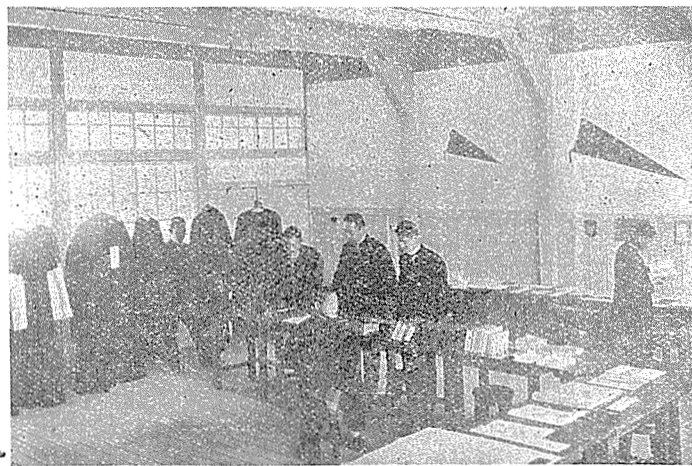
最後に、歐米の諸大學から、多くの祝詞や祝電を送られました。これは言ふまでもなく、本學の最も光榮に感ずるところであるのは勿論、本學に對し、力強き奨勵の響を齎すものであります。この點特に感激に堪へません。

再び、各位に敬意を表し、併せて、この上も御援助を希ふ次第であります。

中川大阪府知事祝辭

本日關西大學専門部文學科開講式を舉行せらるるに際し、祝辭を述べらるるは予の最も悦ぶ所なり。

從來、大阪の如き、我國の一大都市にして夙に教育機關の完備を期すへきに、文學科の如きは全くこれを教授する學校なく、文學研究を希望する學生頗る多數なる今日に於て、遺憾とする所尠なからざりしが、本大學當事者深くここに鑑み、各教育機關擴張の計畫を立て、本年度より文學科の新設を見るに至れりこれ實に教育事業の進歩として、文運振興のために慶賀する所なり。抑も、文學科は學藝思想の根柢をなすものにして、社會の進運に關係するところ甚大なり。故に古來文學は洋の東西を問はず、民族一般の精神生活上、頗る興味を以て研究せられ、特に希臘、羅馬、印度、埃及、支那の如き、古代文明と共に燦然たる異彩を放ち、後進の諸國争つて範をこれに採り、



學生生活參觀展覽會

遠く笈を負ふて文學の淵藪に入るもの、猶ほ今日我國子弟の歐米に遊ぶが如く頻頻踵を接せり。然れども、各國自ら特長あり。我國亦固有の文學を發揮し、大阪の地一時浪華文學を以て鳴る。現今商工業殷盛の衝として、文學を顧みざるが如き傾向あるも、これ益文學の興隆を必要とする餘地の存する所以なり。庶幾く

は、新に教授の任に當らるる諸賢、開導誘掖その宜しきを得學生諸子克く拮据勉勵、華を採り精を揚げ、本學科設立の趣旨をして光榮ある結果あらしめんことを一言以て祝辭をなす

大阪府知事 中川 望

本山大阪毎日新聞 社長祝辭

由來大阪は、京都と共に、我が國固有の文學を醸生した土地であつて、日本文學史上燦爛たる一時代

を劃した母胎は實に我が京阪文化であります。それにも拘らず、不幸にして、今日まで我が大阪市に於て、文學に關する原統的の教育機關を有しなかつたことは大に吾人の遺憾とする所でありました。然るに、今回關西大學専門部に於ける文學科の増設によつて、この遺憾な點が消散せらるること

になつたのは、吾人の深く欣快とするところであります。殊に吾吾新聞事業に携はる者に三つては、殊更この感を深くするものであります。蓋し、新聞は文學普及の機關ではありませんが、之と密接不離の關係にあるからであります。

經濟都市にしての大阪市は、諸般の施設に異常なる努力の足跡を印し來つたが、多くは、機宜的施設に急なるの結果、教育、殊に人格完成の根本的條件である文學教育の機關に就ては、甚だしく大都市たるの面目を損するものがありまして、市民は恰も精神的無産者たるかの如き感がありました。偶本大學當局者の熱心なる御留意によつて文學科が増設せられたのは、丁度飢えたるものに食を與へ、渴したる者に水を與ふるが如く、我大阪市の文化史上に、一新紀元を劃するものであると賞揚したのであります。今後大阪市は、これに依つて、文化都市としての面目を保持し、市民はために潤ひのある生活を送ることが出来るだらうと、喜びに堪へぬ次第であります。

經濟的活動の中心としての大阪市は、更に精神的活動に於ても、今後大に努力を要すべく、而してその精神的活動を旺盛ならしむるがためには、いかに「心の糧」が必要とせらるるものであるかは、多言を要しませぬ。その心の糧こそは、實にこの文學科の供給する所のものであります。斯くて大阪市が形式、内容共に充實完備した、所謂「住みよき都」になることは、實に大阪市民の幸福のためのみならず、吾國の文運興隆のためにも寔に慶賀に堪へない次第であ

ります。
吾人は本大學の、この企ての甚だ有意義なるを悦び、併せてその使命を遂行實現せられんことを切望するものであります。

大阪毎日新聞社長 本山 彦一

村山大阪朝日新聞社長祝辭
今回、關西大學に文學科を創設せられ、大に我邦の文運に貢獻せられんことを抱負を承り、まことに喜ばしいことであります。大阪に於ける私學の權威たる關西大學、古き歴史を有する關西大學に於て、この企圖に出でられたことは、眞に時勢に適せるもので、關西文壇の地歩を確立し、元祿享保の浪華文學の隆盛を今日に甦らしむることを期して待つべしと信じます。

今や、物質文明が漸く窮地に立てる秋に於て、精神文明に裨補すべきかかる重要な施設を、この地に加へ得たるは、實に我我大阪人の誇り申さねばなりません。本日開講の式を挙げらるるに當り、本學科他日の大成を豫斷し、謹んで祝福の辭を述べます。

大阪朝日新聞社長 村山 龍平

關大阪市長祝辭
本日、茲に、關西大學専門部文學科開講の式典を挙げらるるに當り、一言祝辭を述べらるるの最も欣幸とする所なり。

顧みるに、本大學創設以來三十有八星霜、學風年々共に振ひ、或は法制に、或は理財に、或は商學に、幾多有爲の人材を輩出して、國家の昌運に貢獻せられたるに、甚大なり。而して、今亦更に専門部を擴張して、新に文學科の講座を設けらる。是れ偏

に本大學關係各位の熱誠の賜にして、海に感佩に堪へざる所なり。

惟ふに、文學は人文の基調、國民思想の根柢にして、個人の人格完成と社會生活の内容充實とは、該科教育の力に依つ所大なり。近時、本市の經濟的發展頗る顯著なるものありと雖も、動もすれば、物質に偏して精神生活の頹廢を見むるの傾向あるは、識者の甚だ遺憾とする所なり。加ふるに、一般思想界の動搖甚しきものあるに鑑み、これか對策として、文學に關する教育機關の設置は、刻下緊切の措施たるを信ず。ここに本大學に於て、該科の講座を新設せられたるは、市民の輿望を達成せられたるものにして、洵に感謝に堪へざる所なり。

冀くはその施設年々共に備はり、既設各科の充實と相俟ちて、本大學の聲譽益々高きを致されんことを、一言所懐を陳へて祝辭となす。

大阪市長 關 一

神戸駐在佛國領事祝詞

Messieurs,

Je vous prie d'agréer mes plus vifs remerciements pour l'honneur que vous avez bien voulu me faire en me conviant à cette cérémonie; mais je m'excuse grandement d'avoir à vous faire entendre un verbe moins autorisé que celui de S. Exc. Claudel, Ambassadeur de France, qui, s'il avait pu venir comme nous l'espérons avec vous, aurait apporté ici, pour l'inauguration de la Faculté des Lettres de votre Université les paroles appropriées d'un lettré, d'un penseur, d'un poète. Mais, pour être plus modeste, ma voix

n'en sera pas moins sincère dans l'expression des félicitations qui vous sont dues pour avoir pensé qu'à côté des études positives du Droit, des Sciences, de l'Economie politique, si hautement professées depuis quelque 40 ans à l'Université du Kansai, il devait y avoir placé également pour l'enseignement des Lettres, c'est à

社會科學研究會のメンバー (2011) 晩餐會記念撮影



dire de toutes les littératures, nationales et étrangères, anciennes et modernes, de la Philosophie, de l'Histoire. Ce sont là toutes choses au travers desquelles restent éternelle ment fixées la Pensée de l'Homme de tous les pays et de tous les temps, les aspirations de son esprit et de son âme, les cris de son

idéal comme ceux de se joies et de ses misères; au travers desquelles encore on suit pas à pas les progrès de l'esprit humain toujours tendus vers le juste et le beau; et par desquelles enfin on apprend à mettre au service des idées la plus belle forme d'expression. Vouloir proposer ces sujets à l'étude et aux méditations des jeunes gens, c'est vouloir porter au plus haut degré leur culture intellectuelle, c'est vouloir leur donner le goût de ce qui est noble et harmonieux par dessus tout et le désir de devenir toujours meilleurs. Vous réussirez dans cette grande tâche, je n'en doute pas Messieurs et laissez-moi exprimer le vœu que ce soit là un motif de plus de gloire et de prospérité pour l'Université du Kansai.

A ces vœux j'associe tout naturellement la Section des sciences et des Lettres françaises que vous avez tenu à créer tout spécialement dans cette Université et qui vous inaugurez aujourd'hui. Comme Français, je ressens la plus grande fierté de cet hommage rendu à mon pays et à la culture française et je vous remercie de donner ainsi à vos jeunes gens la meilleure occasion qu'ils puissent avoir de connaître la France et, en la connaissant, de l'aimer.

右抄譯

諸君、本日この式にお招きに預りましたことを私は深く名譽の感謝致します。そして諸君と共に期待して居りました文學者として、思想家として、將又詩人として各名あるフランス大使クローデル閣下のやうな文章の立派さはありませんが、閣下にも劣らない誠意を以て一言御祝詞を述べたい存じます。四十年來の光輝ある歴史を有せ

らるる關西大學が、この度法律・經濟・商業の諸學科の外に、古代近代の國文學及び外國文學、哲學、歴史等を含む文學科を設けられることは誠に御尤な次第でありまして、かくの如き學藝は東西古今を問はず、人間精神の發露、靈の啓示として、或は人間思想の歡喜や悲哀の叫びとして、永久に遺されたるものであり、正義と審美の方向に向はんミする精神の進歩に伴はれた所産であります。従つてこれを習得することに由つて、我々は思想を麗はしく現すことを得るのであります。これを青年諸君の研究に提供せんミする所以のものも亦諸君の智的教養を最高の標準に高め、高尚であつてよく調和された趣味を興へやうとするに外ならないのであります。

諸君、私は諸君が大なる努力によつて成功せられることを疑ひません。そして同時にそれが關西大學の名譽と隆盛の因となるであらうことを祝福致します。尙ほ併せてフランス文化研究會の成立を祝し殊にフランス人として、非常にこれを名譽とし、喜びを感じてゐることを申し上げます。終りに今度學生諸君が益フランスを研究し、益フランスを愛せられんことを祈願するものであります。

在日本佛國商業會議所副會頭祝辭

今回關西大學専門部に文學科を増設せられその開講式に列するを得ましたことは私の最も欣光する所であります。承れば關西大學は約四十年に亙る永き歴史を有せられその創立當時は主としてフランス法を研究されたさうであります。これは我我フ

ンス人のひそかに名譽に思ふところであります。

歴史の語るころによります。日本とフランスの關係は明治初年時代に於いては、文學・陸軍・海軍と今日よりも一層親密であつたやうであります。又今日東洋に於いては英語が商業上、交際上に必要であるかも社會科學研究會のカント (その二) 晩餐會記念攝影



知れませんが、フランス語も亦英米を除いて世界中に到る所——ヨーロッパの大部分、南米・アフリカ等——商業上の言葉として通用してゐるのであります。その上外交上の用語としてあまねく用ひられてゐることは既に御承知の通りであります。思ふにこ

れはフランス語が非常に明瞭な言葉であるからであります。この爲めにフランスは又文學に於いて一頭地を抜いてゐるのであります。歐羅巴文學の系統をアングロ・サクソン・ラテンの二に分ちますればラテン文學はアングロ・サクソン文學よりも遙に古いのであります。その由來する所に溯つて行きますと、フランス——ローマ——ギリシヤと、歐洲文明の根源にまで上つて行くものです。従つてフランス語及びフランス文學を研究することは、やがて亦歐洲文明の眞髓を研究する所以ともなるのであります。この度關西大學に文學科が新設されましたが、私は以上の意味から、近き將來にその中の一科として、フランス文學及びその淵源するラテン文明の研究を祈願し且つお勧めするものであります。終りに衷心より關西大學の繁榮をお祈り致します。

江木文部大臣祝電

クワンサイダイガクセンモンブブンガククワノカイコウラシユマシシヨウライノハツテンチイノル
モンブダイジン エギセンシ

駐日佛國大使祝電 (その一)

Impossible malheureusement meilleurs vœux CLAUDEL.

右抄譯

不幸にして貴大學文學科開講式に列席するこの出来ないのは深く遺憾に存するころであります。文學科の新設に對し祝意を表し且つその發展を祈念するものであります。

クオーデル
駐日佛國大使祝電 (その二)

Je vous adresse de tout coeur mes meilleurs vœux pour le succès de votre Université dont je salue le brillant développement CLAUDEL.

右抄譯

關西大學最近異常の御發展に深厚の敬意を表して居りましたが、更に今回文學科を増設せられたことに對し祝意を表するに同時に御成功を祈願して止みません。

駐日伊國大使祝電 (その一)

クオーゼ
Ai regu ici votre lettre et obligé retourner Tokio pour affaires urgentes regrette infiniment ne pas avoir pu faire visite Université suis egalement impossible assister inauguration Faculté Lettres après demain me propose venir Kobe deuxième moitié mai aurai plaisir honneur visiter Université à laquelle exprime vœux sincères Prosperité gloire Ambassadeur Italie de MARTINO.

右抄譯

私は數日前から京都に滞在してゐましたが本日(二十四日)急用の爲め歸京するの止むを得ざるに至りました。

來る二十六日に御舉行になる貴大學文學科開講式には是非親しく出席して、祝意を表し度いさ豫て申上げて置きましたが、この際再び西下して御約束を果すことの出来ないのを非常に遺憾に存じます。來月中旬神戸へ出向きますから、その節は必ず、貴大學に伺ひまして光榮ある貴大學

の前途に對して、親しく祝福の意を述べたい存じませす。

伊國大使 マルチノ

駐日伊國大使祝電 (その二)

Vous renouvele expression regret ne pouvoir me rendre Osaka et comme représentant Italie berceau des plus anciennes Universités Europe vous prie agréer leurs félicitations pour inauguration Faculté Lettres et mes vœux pour la prospérité de la nation japonaise qui sonorant les lettres les sciences et les arts marche vers les plus grandes destinées
Ambassadeur Italie de MARTINO.

右抄譯

關西大學文學科の開講式に親しく臨席出来ないことを重ねて遺憾に存じませす。

イタリー——ヨーロッパに於ける最も古き大學の搖籃たるイタリー——の代表者として私は貴大學今回の壯舉たる文學科増設に對し滿腔の祝意を表する。同時に、文學・科學及び藝術の進歩の曲を奏しつつ、最も大なる文明に向つて進みつつある日本國民に對して敬祝の意を表する次第であります。

伊國大使 マルチノ

ロンドン大學祝文

Dear Sir,
17th March, 1924.

I am obliged by your letter of the 12th February, in which you inform me that you are establishing in your University a Faculty of Literature. Allow me in the name of the University of London, and of University College in particular, to congratulate you on this step.

We feel that no University can be

in any sense complete unless it contains a Faculty of Literature, or, as we call it in this country, a Faculty of Arts.

Allow me, further, to congratulate your University on having reached the 40th Anniversary of its institution, and to express the hope that it will go on from strength to strength, and that its influence in promoting knowledge and the cause of learning will continue. The existence of such a University must make for a fuller and better understanding between the nations of the world.

I am sending you, with this letter, in a separate cylinder, a sketch, done by one of our Architectural students, of the Portico of this College.

I am,
Yours sincerely,
Provost.

右抄譯

貴大學に於て、文學科を増設せられたことを拜承し、欣喜に堪へません。ロンドン大學の名に於て、この御計劃に對し衷心慶祝の意を表します。

文學科の施設なき大學は、如何なる意味に於ても、完全なる大學と言ひ得ないことは今更申すまでもありません。

尙ほ、この機會に於て、貴大學が創立四十年の光輝ある歴史を有せらるることに對し祝意を表する。同時に、貴大學が今後愈有力となり、學問普及の上に貴大學の勢力が一層増大せんことを祈つて已まざるものであります。而して、學問の上に於て、かくの如く有力なる大學が存在するべきことは、世界各國民間に於ける理解を、一層容易ならしむるに與つて力あることを固く信

ずるものであります。

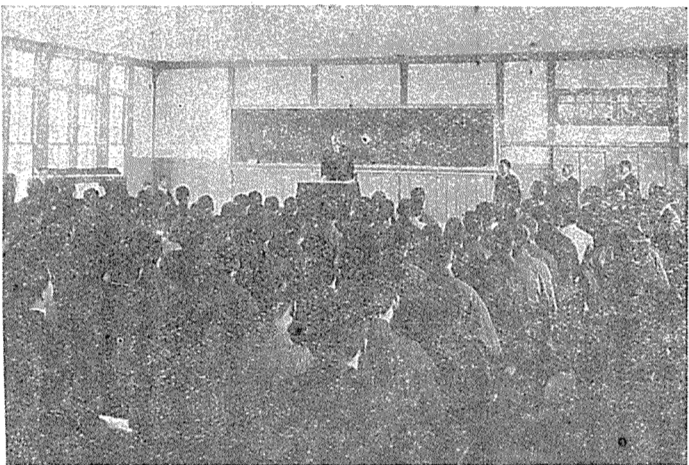
ロンドン大學

コロンビア大學祝文

March 7, 1924

My dear Sir:

I am directed by the President to convey to you on behalf of Columbia University開講式記念撮影式場 (その一)



University our greetings and best wishes on the occasion of your celebration to be held on April 26 next. Your undertaking is an impressive one and deserves fulfilment. We congratulate you most heartily on your plans.

With expressions of high regard, I beg to remain

Sincerely yours,

Frank D. Fackenthal.

右抄譯

コロンビア大學の名に於て、本月二十六日舉行せらるる文學科開講式に對し、滿腔の祝意を表するの光榮を有します。

貴大學今回の壯舉は、世人に深甚なる印象を與ふるものたるに同時に、從つて又これが完成に全力を擧げざらんして得べからざるものであります。重ねて今回の御計畫を衷心より祝福致します。

コロンビア大學

ペンシルヴェニア大學祝文

March 4th, 1924.

My dear Sir:

It is with sentiments of profound interest and pleasure that the University of Pennsylvania learns, through the receipt of your courteous communication dated February the 7th last and addressed to the Provost, Dr. Josiah H. Penniman, of the establishment and inauguration of the new Faculty of Literature at the Kansai University upon April 25th next ensuing.

Without doubt it is a matter of supreme importance to have in all of our institutions of higher learning a faculty of arts and letters, because the test of time has proven indisputably that proper instruction in the Humanities lies at the base of all good education, whether it be general and cultural in its nature, or whether it be as a useful foundation for a professional or commercial career. The illustrious Benjamin Franklin, generally regarded as the founder, and the First Patron of what is now the University of

Pennsylvania, lays emphasis upon this point when he declared in 1749 that "the good education of youth has been esteemed by wise men in all ages as the surest foundation of the happiness both of private families and of Commonwealths". Hence the information that your distinguished school is to add to its educational equipment a teaching force skilled in the interpretation of the classics of the past in letters and the arts, fills us with admiration, and with sentiments of the most cordial felicitations Kansai University upon the near accomplishment of so vital a step in its honorable history.

In thus taking advantage of your gracious invitation to communicate with you upon this august occasion, we are taking the liberty of sending by the same mail a transcript of these writings to our well-beloved son of Pennsylvania, the Right Reverend Father in God, Joseph Sakunoshin Motoda, Bishop of Tokyo, in the hope that he may find himself able and willing to represent his Alma Mater, the University of Pennsylvania, in person at the date of your celebration; or if not, requesting him to appoint a delegate, in his stead, to be present with you upon the date specified in your letter.

With assurances of our highest regard and esteem, both for your noble institution and for the great Japanese Empire, I have the honor to remain

Very faithfully yours,
J. Hartley Merrick,
Vice-Provost.

右抄譯
貴大學が、今回文學科を新設せられたことを、深き興味と愉快を以て拜承するものを、

であります。

凡ゆる大學教育機關に於て、特に文學に關する部門を有するに云ふことが、絶対必要條件であることは今更申すまでもありません。何故なれば、人道に關する誤なき訓育に云ふものが、職業教育たるに然らざるに文學科開講式記念撮影—茶話會場 (その二)



を問はず、凡ての善良なる教育の根柢をなすに於ては、過去の經驗に徴して、明白なる事實であるからであり、同時に維持者であるとして尊敬されてゐる有名なペンシルヴァニア・プリンストンには、前述の點に最も重きを置いて、一七

四九年に教育上の宣言をなして、『青年に對する善良なる教育が、家庭に於つても、將又國家に於つても、幸福の最も健康なる基礎をなすものであることは、總ての時代を通じて、識者の均しく認むるに於てである』と申しました。今や有力なる貴大學が、文學の一部門を増設せられ、以て文藝上の古典に關する教育を施さるるに云ふことを拜承して、吾人は殆ど賞讃の辭を見出し得ぬと同時に、貴大學の光輝ある歴史に、文學なる、大學に於ては緊要缺くべからざる施設を敢へてなされたに云ふことに對し、滿腔の祝意を表するものであります。

この盛大なる式日に臨んで、本大學は、ペンシルヴァニア出身者たる元田氏を代表者として、祝意を述べたいと存じます。終りに、貴大學並に貴帝國に對し、最高の敬意を表します。

ペンシルヴァニア大學

因に右祝文中に在る元田氏は、已むを得ぬ事情のため出席せられなかつたが、特に左の通りの電文を本學に寄せられた。
ブンガクカシンセンシヤタシタス

プリンストン大學祝文

March 4, 1924.

My dear Sir:

I wish to extend to Kansai University the felicitation of the Trustees and members of the Faculty of Princeton University upon your establishment of the new Faculty of Literature. We hope that it may be the beginning of a marked and satisfactorily successful development for

you in the world of letters.

With best wishes for the continued prosperity of the University, believe me,
Sincerely yours,

右抄譯

貴大學に於て、新に文學科を設立せられたことに對して、本大學維持員並に教授會員の祝意を表するの光榮を有します。この壯舉たるや、學界に於ける貴大學の顯著にして成功的なる驥足を伸べらるる端緒たらんことを切望致します。尚ほ貴大學の繁榮益大ならんことを祈願致します。

プリンストン大學

ワシントン大學祝文

February 8, 1924.

My dear Sir:

I do indeed congratulate you and your colleagues upon the fact that a Faculty of Literature has recently been established in Kansai University. I feel that besides my personal congratulations I may extend to you those of the Board of Regents and the Faculty of the University of Washington.

It is a great step forward that you have taken and we give you our hearty good wishes that you may in the years to come do as great service in training the young men and women of Japan in language and literature, history and philosophy, as you have been doing for the past forty years in fitting them for professional and business careers.

A knowledge and appreciation of the literature and history of a people go far toward creating a proper understanding of that people and make easier the esta-

bishment of inter-national goodwill and friendship.

With the assurance of our sincere interest in this expansion of your field of service, I am

Your respectfully,

Henry Suzzallo, president.

右抄譯

貴大學に於て、今回新に文學科を増設せられたことに對し、關西大學長並に維持員諸彦に衷心祝意を表するものであります。私はこの際私自身の祝意の外に、更に本大學理事及び教授團の祝意をも併せ御傳へする次第であります。

貴大學今回の舉は、正しく異常の進展を示すものであります。貴大學が過去四十年間に亘り、人材を養成して、以て文教のためよく貢献せられたるに同様に、この新たな文學科に於て、將來日本の若き人人に、言語、文學、歴史哲學等人間性の啓發に必要なる學問を授けんことを對し、滿腔の祝意を表するものであります。

或國民の有する文學並に歴史に對する知識及びこれ等の鑑賞は、その國民を正當に理解し、從つて國際的親善の友情を増進せしむる上に、必要缺くべからざるものであることを信じます。尙ほ終りに、貴大學がその使命に一段の飛躍を圖られたことに對し敬服の念に堪へません。

ワシントン大學總長 シ ャ ザ オ

エール大學祝文

March 6, 1924.

To the Board of Trustees and Members of the Faculties of

Kansai University, Osaka, Japan.

Gentlemen:—

On behalf of the President and Fellows of Yale University I have the Honor to congratulate your institution on the establishment of its Faculty of Literature.

In the brilliant history of Kansai University it has produced four thousand graduates from the faculties of Law, Economics and Commerce who have added to the justly celebrated achievements of Japan in those fields of endeavor. Our University records with satisfaction the development of a Faculty of Literature which will take its place with the other faculties which have been so long successfully established. We wish at this time to express to you our interest in your University, and in the development of ever more friendly relations between Japan and the United States.

With deep respect, believe me,

右抄譯

本大學總長並に校友を代表して、貴大學が今回文學科を増設せられたことに對し、衷心祝意を表します。

貴大學四十年の光榮ある歴史に於て、法律、經濟、商業等の諸學科より、約四千の卒業生を出され、これ等の人人は日本の凡ゆる社會に貢献されたに承つて居ります。本大學は、貴大學今回新設の文學科が從來の諸部門と同じく發展せんことを祈るに同時に、大いなる興味を以て貴大學の前途を囑するものであります。終りに、日米間の親善益加はらんことを祈つて己みません。

エール大學

ミネルン大學祝電

Zur Eröffnung Ihrer Philosophischen Fakultät herzlichsten Glückwunsch Universitat Muenchen.

右抄譯

貴大學に於いて新に文學科を増設せられたことに對し衷心慶祝の意を表する次第であります。

ミネルン大學

シカゴ大學祝文

April 11, 1924.

I hope that there is still time for this message to reach you in season for the inauguration of your new Faculty on the 25th of this month.

The addition of the Faculty of Literature to the staff of your University will, of course, greatly increase the facilities of the University to render a service especially needed at this time. The function of a Faculty of Literature is primarily that of discovering and training those who shall be in a larger or lesser degree leaders of thought and action among their people. For obvious reasons this is a matter of special interest to Americans—to know that the means of discovering and developing such leadership in Japan are being so greatly enlarged.

Please, therefore, accept my very sincere congratulations among the numerous similar messages which I am sure you will be receiving from this country.

右抄譯

甚だ遅延致しましたが、尙ほ今回貴大學新設の文學科開講式までにこの祝辭の届かんことを切望致します。

貴大學に文學科を増設されましたことは、言ふまでもなく、時に今日の時勢が要求する貴大學の使命を果さるる上に於いて、一大利便を與へることに信じます。文學科の機能は元來一國民の思想及び行動に對する直接間接の指導者を養成するにあるのであります。日本に於いてかかる指導者を養成する機關が、日を追ふて益擴張せられつつあることを承知致しますことは、我アメリカ人に三つて時に興味を感ずるにところであります。

この意味に於きまして、我國から他の同様な祝辭が數多く貴大學に届いてゐることは信じますが、何卒本大學の衷心よりの祝辭をも併せてお受け下さることを願ひます。

シカゴ大學 教員囑任

今回左記諸氏を本學に招聘し、それぞれ頭書科目の擔當を依頼した。

- | | |
|---------|------------|
| 學部講師 | 瀧川幸辰 |
| 刑法總論 | 法學士 竹内省 |
| 手形法 | 法學博士 山田正三 |
| 民事訴訟法 | 法學博士 跡部定治郎 |
| 國際私法 | 法學博士 末廣重雄 |
| 外交史・政治史 | 法學博士 首藤守彦 |
| 大學豫科講師 | 醫學博士 大立目重虎 |
| 自然科學 | 醫學博士 徳尾俊彦 |
| 獨語 | 佛語 |
| 佛語 | 新町徳之 |
| 英國語 | 松田一 |
| 英語 | |
| 專門部講師 | |

文明史 文學士 井上以智 爲
 英語 坪内士行
 行政法 法學士 黒田 覺
 英語 法學士 岸本 正清
 國際私法・英語 佐佐 穆
 財政學 法學士 植野 勳

ビッケル氏からの來信

昨年十月末日本學を訪はれ、一場の講演を試みられた米國合同通信社長カール・エー・ビッケル氏は、過般本學櫻井教授に左の如き書信を寄せられ、同時にその書信中にある通り、故ウィルソン大統領に關する書物を送られた。

March 15th—1924.

My dear Mr. Sakurai:

I am mailing you a little book on the life of the late President Wilson—a collection of intimate reminiscences by Robert J. Bender of the United Press—which I hope may interest you.

With cordial best wishes,

Sincerely,

K. A. Bickel.

織田顧問の渡歐

去る一月末來歸朝中であつた本學顧問、國際司法裁判所正判事織田萬博士は、去月二十七日神戸解纜の日本郵船香取丸にて、再び任地に赴かれた。

森下留學生の學位受領

滯米研學中の本學留學生森下政一氏は、去る二月ウイスコンシン大學に於て、マスター・オヴ・アーツの學位を授けられた。

柿崎専務理事の病氣全快

微恙加療のため千里山住宅第二二三號に轉地

靜養中であつた本學専務理事柿崎欽吾氏は、病氣全快して、去月二十六日寶塚の同氏別荘に歸宅せられ、尙ほ病後を養ひつつある。

佐多評議員の叙勳

本學評議員醫學博士佐多愛彦氏は、今回大阪醫科大學學長を辭任せられたが、その顯著なる功績により、勳三等に叙せられた。

沖中講師轉住

本學講師沖中恒幸氏は最近左の通り轉居した大阪府三島郡千里山住宅第二二三號

本學第二商業學校新設

かねて計劃中であつた本學第二商業學校新設の件は、その後急速に具體化し、去月二十五日附を以て愈その認可を見るに至つた。同校は高等小學校卒業又は中等學校二學年修了者を以て入學程度とする修業年限三年の夜間商業學校で、先づ第一、二兩學年を募集し、差當り本學専門部豫科學生を試験の上入學せしめることとした。

尙ほ同校新設と同時に、從來の専門部豫科第一學年を廢止することとし、同科現在學生の修了を俟つて漸次全學年を廢止することになつてゐる。開校は本月下旬からの豫定であるが、詳細は次號に報道することとする。

本學フランス研究會の新設

フランス文化を研究し、併せて日佛間の學問的關係を一層増進するに云ふ目的の下に、本學教職員、學生、その他關係者中の有志から成る關西大學フランス研究會なるものが創設せられた。(本誌第二二頁同會會則参照)

衆議院議員に當選せる本學關係者

本月十日を以て行はれた第十五回衆議院議員總選舉に際し、本學關係者中めでたく當選の榮冠を贏ち得られた人人は左の通りである。吾人はこれ等の諸氏に對し衷心慶祝の意を表するに同時に、邦家のため一層自重自愛あらんことを切望するものである。

東京府第八區 校友 作間耕逸氏
 大阪府第一區 校友 板野友造氏

同	贊助員	前野芳造氏
同	第二區	校友・監事 武内作平氏
同	第三區	舊講師 清瀬一郎氏
同	第四區	贊助員 廣瀨德藏氏
同	兵庫縣第十區	評議員 武藤山治氏
同	茨城縣第五區	贊助員 井上虎治氏
同	朽木縣第二區	贊助員 内田信也氏
同	富山縣第六區	贊助員 齋藤藤四郎氏
同	岡山縣第五區	贊助員 石原正太郎氏
同	講師	小川郷太郎氏

關西大學理事 垂水善太郎氏 還曆及勤績三十七年記念會に就て

關西大學が今日の隆運を見るに至りたる基因一にして足らずと雖も校友垂水善太郎氏が三十有餘年の長きに亘り終始一貫同學のために盡瘁せられたる功績は少くともその一因たるべく、従つて關西大學が同氏に負ふところ又鮮少なりと言ふを得ず。

氏が甫めて關西大學に勤務するに至りてより今や實に三十有七年、その間自己榮達の念を去り生涯の大事を同學に捧げ給已に還曆に達す。吾人は深く同氏の功績を思ひこれを表彰すると共に、その還曆を祝せんがため茲に本會を起し大方の御同情に訴へ左記事業を行はんとす。希くは奮て御贊同あらんことを。

一、寄附金額

五圓以上とし贈呈の方法は在阪發起人に御一任を乞ふ

二、祝賀詩文

右寄附金と共に左記還曆に關する詩歌俳句等を寄せられたし

イ、垂水氏の還曆に因みて

○、垂水氏の三十七年勤績に因みて

三、締切及發表

寄附金及玉稿は大正十三年六月三十日迄に大阪市北區福島關西大學内垂水氏記念會宛御送付を乞ふ入手と同時に領收書並に謝狀を拜送し更に「千里山學報」に發表す

大正十三年五月

垂水氏還曆及
 勤績三十七年
 記念會發起人一同

本學年度大學豫科入學者出身學校別人員表

大阪府	天王寺中學校	九	奈良縣	郡山中學校	三	香川縣	丸龜中學校	一
同	市岡中學校	一	鳥取縣	育英中學校	二	青森縣	縣立第一中學校	一
同	北野中學校	五	兵庫縣	姫路商業學校	二	山口縣	八戶中學校	一
同	四條噺中學校	六	岡山縣	關西中學校	二	石川縣	興風中學校	一
同	岸和田中學校	五	同	閑谷中學校	一	福岡縣	第一中學校	一
同	堺中學校	一	京都府	佐賀商業學校	一	和歌山縣	和歌山中學校	二
同	富田林中學校	二	山口縣	紫野中學校	二	福井縣	小濱中學校	一
同	茨木中學校	三	京都府	防府中學校	一	岡山縣	金光中學校	二
同	八尾中學校	五	滋賀縣	花園中學校	一	東京府	豐山中學校	一
同	今宮中學校	〇	東京府	嘉穗中學校	一	愛媛縣	今治中學校	一
同	上宮中學校	八	兵庫縣	八日市中學校	一	兵庫縣	第一神戶中學校	三
同	關西甲種商業學校	九	茨木縣	日本大學中學校	四	奈良縣	畝傍中學校	三
同	天王寺商業學校	〇	德島縣	伊丹中學校	二	京都府	鳳鳴義塾中學	一
同	桃山中學校	一	福井縣	太田中學校	一	同	米子中學校	二
同	朝倉中學校	一	宮城縣	縣立商業學校	一	鳥取縣	中學練習館	一
同	盡誠中學校	二	京都府	東北中學校	一	福岡縣	豐橋中學校	一
同	東北學院中學校	一	香川縣	京都中學校	一	愛知縣	甲府中學校	一
同	山口中學校	一	岡山縣	三豐中學校	一	山梨縣	芝中學校	一
同	小野中學校	二	福岡縣	岡山中學校	一	東京府	立命館中學校	三
同	兒島商船學校	一	和歌山縣	八幡中學校	二	京都府	龍山中學校	一
同	三次中學校	一	鹿兒島縣	宮新中學校	一	朝鮮	第二中學校	一
同	山陽中學校	一	廣島縣	福山中學校	一	石川縣	三池中學校	二
同	膳所中學校	二	兵庫縣	杵築中學校	一	福岡縣	鹿島中學校	一
同	關西學院中學校	二	廣島縣	宗德中學校	一	岡山縣	第一岡山中學校	二
同	岡山商業學校	一	廣島縣	縣立工業學校	一	京都府	聖峰中學校	五
同	安藝中學校	二	岡山縣	廣島高師附屬中學校	三	京都府	下野中學校	一
同	中海中學校	二	大阪府	海南中學校	三	京都府	平安中學校	一
同	幼年學校	一	大阪府	大阪貿易語學校	二	長崎縣	島原中學校	一
同	松江中學校	一	兵庫縣	坂出商業學校	一	兵庫縣	洲本中學校	三
同	廣陵中學校	三	德島縣	第二神戶中學校	二	山口縣	萩中學校	一
同	富山中學校	一	岡山縣	撫養中學校	一	靜岡縣	濱松中學校	一
同	矢掛中學校	三	大阪府	津山中學校	四	和歌山縣	高野山中學校	三
同	松山中學校	一	德島縣	大阪市東商業學校	二	大阪府	明星商業學校	五
同	豐國中學校	二	兵庫縣	德島中學校	一	和歌山縣	耐久中學校	一
同			甲陽中學校			和歌山縣		
合計			高等學校入學者檢定試驗合格者					

校友の面影

▲大阪市長 和田相也氏▼
(明治三十年法科出身)

「仕事について——言つて別に申上ける程のこともありませんが、兎に角大阪の市會は全國で最も模範的だと言はれてゐる位、いつも圓満に進行するのです。大抵開會の前には各派交渉云ふのがあつて、市會に於ける各黨派は議場には



いる前に、討議さるべき諸問題について、各充分の研究を遂げるだけでなく、その賛否或は修正云ふことについても各派の間に大體意見の一致を得るやうに努めてゐます。ですから議場での仕事云ふのは殆んど豫定のプログラムに従つて議事を進行して行くやうなものですから僅か二時間餘の間に五六十件の議案を片付けてしまふことも可能なのです。そして各派交渉の時には如何なる小數派の意見もこれを無視する云ふやうなことがありませんから、所謂多數の横暴云ふやうなこともなく、至極平穩無事に終るものですから、私共の仕事も誠に簡單に済みます。従つて東京や京都では一ヶ月に數回も市會を開きますが、大阪は一回で充分事足りてゐます。かう云ふのも畢竟は空論を捨てて實行に赴く云ふ大阪人質氣の致すところではせうか、東京などはこもする議論倒れにな

るやうな傾向が多くて、市としての諸事業やその他が迅速に進捗すること、大阪の如きは殆ど全國にその例を見ないこと云つてもよい位です。この間も名古屋で全國市會書記長會議がありまして私も出席しましたが、その席上でも盛に羨まれたやうな次第でした。議員の數ですか……現在で丁度六十六人、新澤會云ふのが、過半数を占めて居ます、ええ議員の中には校友の方も少くありません。都市計畫だとか、特別市制だとか話せばいろいろありますが、それらについては私なんかの喋る幕ぢやないでせう。」

氏は當年四十八歳、家庭は三人の坊ちゃん一人の嬢ちゃんがあつて、大阪市會にも劣らず至極圓満、趣味としては謠曲、釣など随分堂に入つたものである由、酒も少々はのこころであつた。更に過去に湖る氏は本學卒業後、東京に出で一段の研鑽を積み、明治三十三年内務省屬となつたのを振出しに、和歌山、徳島等の縣廳に職を捧ぐること數年、一時は官界を退いて京津電鐵に入り又當地日紡社長の秘書となつたりしてゐたが、大正七年の十一月に市役所にはいつて、爾後ずつ現職にある。生れは丹後の舞鶴藩、將來の大成を現在の自重を祈つて擱筆する。

▲辯護士 吉田音松氏▼
(明治三十五年法科出身)

總選舉も後旬日に迫つた四月の末、政友本黨

大阪支部の重鎮として自ら陣頭にこそ立たね維傭に參じて政戰の謀略に寧日なき氏を平野町の私宅に訪ふ。多忙の間に拘らず、快く書齋に通されて見るに、室の片隅に小さい臺が設けられて、其處に大小十數個の布袋の像が並べてある。



「未だ倉には随分あるのだけれど、餘り多くも並べられないからね、いや別に意味もない、唯便便たる腹を突き出して始終笑つてゐるその姿が面白いからさ。勿論眞偽は知らぬが布袋については一つの傳説がある。何でも支那の昔、世の中が奢侈に流れて生活の様式が無暗に複雑になつた時、さう云ふ人があつて大きな袋に世帯道具一切を入れ、弊衣の胸を擴げて旅から旅へさすらつてまわつた云ふのさ。つまり新しい言葉で云へば單純生活を實行して世を諷刺したのだらうね。一寸今の時代にあてはめて考へても面白いよ。まあ道樂でこんなものを集めて見たりするのさ。その外小説も讀めば寫眞もやり暮、散歩、何でもござれだがその代

り何一つ奥義に達したものもない。感想云はれても何もないが學校に對する希望を一言云へば、關西大學は古き歴史を有する學校であるし、最近又大學に昇格したのだから將來名實共に完全なる大學たらしめるやうに、お互努力し度い云ふことさ、今度又文學科が出来たが、これも將來思想善導の先頭に立つ位の意氣込でやつて貰いたい云ふことさだ。」

神謀鬼略、虚實の間に敵ミ相見えながら、尙布袋を説き、學校を語る、まことこれ英雄胸中閑日月あり矣。氏は石川縣の人、本學卒業後明治四十年に辯護士試験をパスし、翌年大阪で開業して今日に及ぶ。大正四年には府會議員となつて大いに府政に盡瘁したこともあり、又中央政界にも政友本黨の錚錚たる人傑として名あるは人の知るこころ、家庭は寫眞でも分かる通り百花爛熳、子寶の多きに加へて、氏自身亦春秋に富む。氏が現在の幸福さ、將來更に爲す有る大なるを確信するものは獨り筆者のみではあるまい。

寫眞説明(向つて左より)吉田音松氏(四十七歳)二女夏子さん(十二歳)長男正一君(五歳)長女明子さん(十四歳)三女秋子さん(九歳)靜子夫人(三十四歳)

新説 文明は衰退し つつありや

「文明は衰退しつつありや」 IS CIVILISATION DECAYING?」なる同一の題目の下に、昨秋シンドニー・ウエブ(Sydney Webb)、ラスキー(Laski) パートランド・ラッセル(Bertrand Russell)の三氏に依つてなされた、各一場の講演の大意を左に抄譯紹介して見たいと思ふ。——T. M 生

文明は衰退しつつありや

—シンドニー・ウエブ

私は先づ文明云ふ言葉が、さうしても事實の明瞭且つ確固たる表現でなければならぬのにも拘らず、これに關して、充分に理解し得る確定的な定義を見出すことが甚だ困難であることを斷つて置かなければならない。消極的に定義すれば、文明とは結局單に野蠻の反對たるに過ぎないのであつて、所謂文明人の状態は原始人のそれと全く反對の立場にあるのである。具體的に言ふと、原始人の活動は生活資料の生産だけに限られて居つた。そこで文明とは單なる生活資料の生産以外に、餘剰の生産力が存在する社會状態を意味するものとなつて來る。そしてその生産力の餘剰を處分するために採用せられた方法が、大體に於いて文明の形態を決定するのである。文明云ふ言葉を一の絶對的な生活の標準と考へる傾向は、如何なる意味に於いても避けなければならぬ。それは全く社會の相對的狀態を現すものである。優越せる各の國民は、會て古代のギリシヤや十九世紀の支那がなしたやうに、他の凡ての國民を野蠻と認めやうとする。又吾人はヨーロッパの文明が、一千年

以前には單なる野蠻状態にあつたことを斷言した。然し吾人は今日より一千年後の社會に於いて、同様の言葉が用ゐられないことは恐らく言ふことが出來ないであらう。文明は凡て發達するか衰退するかを道を通つて來たものであつて、一定の時にその文明が全體として進歩しつつありや、退歩しつつありやを知ることは、如何なる國民にとつても不可能なことであらう。文明の各形態は明かに一時的であつて、從來多くの文明は單に衰退して來たばかりではなく、或は程度の差こそあれ、全然消滅してしまつたものもある。文明が漸次崩壊して行く主な原因は、風土的變化、疫病的原因、人種の墮落、性道德頹廢の影響、異人種間の雜婚による人口の減少等であるらしく思はれる。「誤れる文明破滅説」によれば文明は俄に崩壊するもの、一夜にして消滅するものと誤信せられてゐるが、それは全く事實無根といふべきで、文明衰退は殆ど凡ての場合、數世紀にも互る漸進的な過程である。例へばローマの没落には四百年を要した——それはエリザベス女王の治世から今日に至る期間よりも遙に長いものである。但し一舉にして文明を根絶せしむるが如き暴虐な災厄の可能性も亦見逃すわけには行かない。それは將來に於ける具體的な可能性を豫示することは出來ないが、必ずしも荒唐無稽なことは言へない。然しながら、これ等の諸原因は、今日の社會状態を如何に分解しても無關係なものであるかの如く見ゆる。が又疑もなく、近世文明の一局面に關係ある他の原因が存在してゐる。ある文明は「社會の健全と分つべからざる關係にある社會制度に體現されてゐる

ところの、道德的又は智的誤謬を通じて」没落した。アメリカ南部諸州の黑人奴隸、古代印度に於ける階級制度、又は東洋諸國の蓄妾の風習等は、何れも各文明衰退の根源を示してゐるものである。二十世紀に於けるヨーロッパ人の生活には、特に著しく、各種の社會的缺陷の兆候が現はれてゐる。就中支配階級に於ける自己信頼心の喪失、特に神學者、道徳家、科學者、經濟學者の間に於ける確信の缺乏これである。實業に於いて、將又一國の政道に於いて、或ひは又個人の私的生活に於いて「厚顔なる道德の拒否」が——而も單に特種な道德の排除のみでなく、一般の道德的機能が失はれてゐる。更に恐らく最も重大なことは、恥づることなき「貪婪の崇拜」が個人生活にも集團生活にも存してゐることである。英國に於ける最も不祥なる前兆は、中堅階級の不安な状態と、トラストや企業聯合の形式にあらはれた生産及び分配の資本主義的組織である。後者は強奪に對する消費者の保證を破壊し、かくて生じたる經濟的獨占は、私的企業の自由競争制度が、依つて以て打ち建てられた根本の原理を打ち破つてしまつた。近代の資本主義的組織はその經濟的貴族主義と共に、社會生活の經濟現象に於ける固有のものではない。又それはバイブル時代に始まつた制度でもなければ、英國に於いては二、三世紀以前に、アメリカに於いては三、四世紀以前には存在してゐるなかつた。この中堅階級の不安に加へて、更に社會の象皮病的現象である問屋、小賣店等の販賣者があつて、ために分配には莫大な費用が嵩み、そして財の價格はその價值に關係を有し得なくなつてゐる。而も他面に木材や石油、石炭の如き富源の無謀な蕩盡によつて、浪費的貧血病にも譬ふべき缺陷がある。尙ほより一層著しいことは、これらの生産、分配が、その機能を圓滑ならしむる目的をはなれて、ひたすらに營利のみを主眼とするところである。資本主義が病的になるのは、それが健全な産業機能の要求するところ、或はそれと一致するもの以上に不當の利益を貪る時に生ずるのである。そうなるに、それはラスキンの所謂「Might is Right」を生ずに至る。少しばかりの利益は機械油の如くで永持するが、それが多すぎるに却つて機械を損ずる。不生産的階級や地主階級やの發達は社會にさつて恐るべき脅威である。

文明が常に衰退しつつあると言つても、それは必然に死滅しつつあるのではなく、寧ろ常に新しき生へ進み得べき能力を有つてゐるものである。恰も人間の生命に於けるが如く、その組織は絶えず破壊されると同時に、回復されつつあるのであつて、文明が健全であることは、單にその衰退と再生との間に均衡の存することである。而してその均衡は、その社會組織を改善せんとする社會的意識的努力によつて、これを得ることが出来る。社會はそれ自身を改良することの出来る極めて尊い特權(力)を有してゐる。この集約的努力をなし得る能力の大小は、少數者の創見と鼓舞を以て測られるので、多くの平凡な人の間に撒き散らされた少數者の知識は、社會に對して「社會をその軌道によつて持ち上げる」云ふ奇蹟を保證するものである。これを現在にあてはめるに、先づ第一に缺ぐべからざるこ

は、營利の動機を根絶することである。經濟生活に於ける唯一の有力な衝動は利益にあらざりて勞働なのである。營利云ふことは機能の圓滑を破壊して、健全な社會狀態を永久に危險に瀕せしめつつある貪婪の慾望を齎らした。この貪婪の慾望は、社會奉仕云ふ一層簡單な理想にその道を譲らねばならぬ。これは堪へられぬやうな高い目的ではない。それは現代の個人生活に於ける社會的寄與の責任と大差なきものであり、機能の圓滑に對して貪慾を抛棄し、賃金に對して利益を無視すれば足りる。而もこの變化は社會の五分の一、或は恐らく十分の一の不生産階級以外には何等影響がないであらう。何となればその残りの者は現在に於いて、既に賃銀所得者であるからである。即ち現代社會の救済はこの點にある。そして又實に「個人的資本主義から消費者の共同的運動、都市社會主義及び大産業の國民化への全般的推移の中」に存するのである。(フエヒアン・ニュース一九二三年、第一一號より)

政治的民主主義は存続し得べきか

—ラ ス キー—

私はペンタムやブローガム、ミル父子のやうな人人の心に現れたと同様な政治學上の問題を先づ指摘して、この講演を始める。即ち彼等の考へによれば、民主政治の凡ての困難は、次の三の條件——文官勤務の淨化、普通選挙の實施、及び普通教育制度の確立——を勵行することに依つて解決せられる。吾人が直面せざるを得ない政治上の諸問題が、民主政治の複雑な概念を必要とするに至つたことは、

今日認められてゐる。

民主政治に對する從來の考へ方は修正を要する。民主政治の定義としては、人民の要求なり意思なりが明かにせられて、それが政治を權力に近づくかしむるやうな、さう云ふ國家の依つて立つ原則を言ふべきである。古代に於ける民主主義の例——それによるを爲政者の撰擇さへ人民の意思によつて決せらるるならば、それで充分である考へられてゐたが、それは現今では最早や正確でなくなつた。即ち投票箱が理想的か否かの標準だけでは充分でなくなつたのである。勿論、現今の政治を力あるものにしてゐるものは人民の意思であらう。然しそれは必ずしも現在の政治を民主的なものとするものではない。

民主主義の眞の效用を最も離すべからざる關係にあるものは教育である。政治的民主主義は教育上の民主主義を除外しては無意味であつて、若しそれが行はれないならば、代つて來るべきものは民主主義の滅亡である。ブラトーはその理想國家に於いて、教育大臣を陸海軍大臣等よりもより決定的に重要なものにしてゐるが、これは民主政治の完全を期するために已むを得ないことなのである。我英國の教育制度——例へばボブラー、サーピトン、ベルグラビア等に於ける、兒童の凡ての教育制度は可成り缺點を有する。教育上の民主主義は、政治組織の大改革に先んじて實行されなければならぬ。

この政治組織の改革は明に物質的のものさなつて現れる。今日の衆議院は全く行政部によつて支配されてゐる。而もそれに對して貴族院は何の役にも立たない。私はバジヨット

と同じやうに、依然として一院政治を取るべきだと主張するものである。議會に於ける各人の個性云ふものが、唯前方二列の大臣席を除いて何れも全く没却されてゐることは何處でも同様である。立法は委員に委され、そして人民の自由を危くするやうな、稀有の權力を有する行政部の代表者を通じて、常に決定される。D.O.R.A.は英國に於ける行政部の勢力發達の途上に横はる罪惡の一例であつて、又イタリー、フランス、アメリカ及び

スペイン等の現狀は、滔滔と國家の神化に進む一般の傾向を證明するものである(これと同様に中世に於いてはよく教會が神化せられた)。このことは自由思想と良心とに對する、あらゆる危險が満ちてゐる。そこには意見を述べることに對して刑罰が存在する。然し政治的民主主義は、政治や政體の變化によつて存続するものでなく、寧ろ社會組織の根柢に影響を及ぼすに至る或過程を通じて存続するであらう。民主國家は勞働階級に對すると同様に、有閑階級に對しても教育を怠つてはならない。さうでなければ、個人にまつて市民權を適當に行使することは不可能であらう。又民主主義の哲學的目的を認識すること必要であり、且つ現在の政治機關について判斷すれば、實際缺ぐべからざる組織に、單に我が親しみ深くなつてゐる組織とを區別することも必要である。一國の經綸は教育ある代表者の事業でなければならぬ。その中に含まれてゐる何等の特別な仕事にも同じな

政府の御役人の事業であつてはならぬ。地方的政治ももつと創造的でなければならぬ。現在より以上の權力を中央政府より移して、

以て市政の當局に與へなければならぬ。かくして各地方は市民生活の創造的中心となり得るであらう。

然し根本的な變化は、財産の概念に於いてである。財産の機能と效用及びその所有との間には、一の關係がなければならぬ。財産相續の法律は廢止されなければならぬ。産業の操縦に於いて、その支配權は株主の手中にはなく、能動的にそれに従事してゐる人の手中になければならぬ。基本的産業は、一般の利益のために支配せられなければならず、假令それに資本が用ひられても、その支配權は依然産業に於いて、事實運用に當る主體に残されねばならぬ。産業上に於ける立憲主義は産業的權力の終極の民主主義化について必要である。

政治の對外的政策は平和の實現に向けられねばならぬ。戦争と民主主義は全く相反するものである。現在認め得る國際政治の或種の現實性は、これを發達せしめなければならぬ。國民主義はそれ自身民主主義に不適當であることは明かである。最後に、教育なくして政治的民主主義が存在しない云ふことを再び明かに認めなければならぬ。(同前)

科學の社會組織に及ぼす影響

—パートランド・ラッセル—

ラッセル氏は先づ、近代科學の我が文明の上に及ぼした影響を指摘し、講演の本題目に入る。現在の生活狀態に、アン女王(Queen Anne)の治世に於ける主たるそれとの相違の、殆ど總ては科學の影響に基くものである。人間の本能は、その環境の變化に伴つて、常に變化

する傾向を有するが故に、その結果として、生活それ自身も變遷して來た。

或る時代には科學の二效果として人間が合理的動物になつたに信じられてゐた。然しこれは勝利者の夢みる幻影の一つに過ぎないのであつて、現代はそれを打碎くのに適してゐるかのやうに見える。何と云へば、本能及び衝動は、依然として人類の行動の主たる原因であるからである。又廣く行はれた今一つの美しい幻影は、科學は人をして自然を征服せしめたその結果として人間の幸福が増加したと云ふ考へである。

科學は三種に分つてゐる。即ち物理科學(但し生命學を含まず)、生物科學(人間以外の生命學を含む)及び人類科學(人類に關する凡ての特種科學を含む)これである。物理科學は及ぶ限りの大効果を齎して、産業革命を惹起した。然しこの産業革命が未だ支那、印度、ロシア及び南米の大部分に觸れてゐないことは、記憶すべき價值があらう。若しこれが全世界の上に行はれるとすれば、恐らく工業主義の根本的な一面を、著しく變ぜしむるものがあるであらう。心理學上の行動主義者のやうな方法を工業主義の結果に應用するに、人は工業社會がまるで疑はしい贅澤の後ばかりを追廻してゐたことを知るであらう。

これ等の中の最も重大なものの一は、非常な大人人口云ふことであつて、このことは結局生活標準の低下以外に何物をも意味しないことになる。が更に以上以上に重大なのは戰爭である。競争は工業相互のそれから國民相互間のそれに進み、市場と原料獲得の競争者は、更に權力に對する慾望に燃え、ここに競争さ

云ふ贅澤の機會を無數に作り出すことになる。工業主義は勞働を生活必需品の生産から解放して、社會組織相互の關係を非常に緊密なものにした。がこれ亦科學者の仕事であつて、彼はかくて鼓舞せられた緊密な組織、國民主義に對して責任がある。世界を打つて一丸にした經濟組織や政治組織は、國民的競争の前には全く不可能なのである。凡ての社會生活上の問題は、出来るだけ大きな組織を造ることもなければ、又出来るだけ小さい組織を實現することもなく、唯それが如何に有用であるかを發見することである。

ラッセル氏は、現代社會が無政府主義に向つて行く本質的傾向を自認したが、又その中かなり多くの組織が、科學的文明には真隨的のものであることも認めた。然しそれは國際的であるために必要なのであつて、國民主義的のものではない。國際的社會主義は、この問題を解決するであらうけれども、それが期待するべく餘り大であることは、極く簡単に理解され得ることである。

物理學が關する限りに於て實現されさうな最善の希望は、或一團體(恐らくそれはアメリカであらう)が、資本家として他の諸國民を無産者とし、アメリカの世界組織に進んで行く力ある勝利であるらしく見える。若し世界組織が假令壓制なものでも一度創られれば、秩序ある進歩は再び可能なるであらう。生物學はそんなに多くの結果を齎してゐない。ダーウィニズム及び進化論は深刻な社會的變化に役立つてゐない。然しながら、これらの科學は遺傳の研究を通じて見た發達の可能性を別として(それは農業革命や優生學を止し別科にした)りすることを結束したかも知れないが、精神生活について若干の意味を有して

る。人類學は未だ充分發達してゐないが、結局最も大なる社會的效果を持つべき運命を有してゐる。人工的産兒制限は將來に於いて、少數の白人に依つて、政府のために産兒制限に關して何事かを知ることゝ妨げられてゐる。その他の諸民族を支配せしむるに至るかも知れない。これは又充分可能性のあることであるが、やがて白色諸民族の反抗及び滅亡となつて局を結ぶであらう。避妊はこの點について考慮せらるべき今一つの要素であつて、今日では唯迷信がその適用を妨げてゐるばかりである。然し虚弱な人から始めること云ふことは可能であらう。但しこれに伴ひさうな結果は、虚弱さ云ふことを證據として、政府反對が起るだらうと云ふことである。優生學は更に特別な型の人類の再生を自論むことが出来る。僧正と總理大臣は次の時代には始めからそれらしく生むことが出来るであらう。管樂のな

い大演奏によつて情緒的性質を左右し得ること云ふことは出来れば重大な發見である。而も政府は、人工的に、望み通りに如何なる性質の人間でも作る事が出来るかも知れないのである。これらの變化の純粹な結果は非常な能力のある人をなくしてしまふかも知れぬ。然しそれは矢張り一般の標準を高めることなるであらう。科學はその效果については支配階級又は國民の性情に俟つこと大である。それは善に對しても、惡に對しても、無限の可能性を有するものであつて、決して道徳に取つて代るべきものではない。若し人類が合理的動物であるならば、即ち若し彼等がその眞實に望む通りを實行せんとするものであるならば、科學は價に見積られる善であるに充分であらう。然し人類がお互に他を打ち負かす

ことを考へてゐる限りは、科學の進歩の各階段は却つて害をなすであらう。悲惨なこの經驗は早晩知識を生ずる。そして親切誠實等の衝動と共に、科學は從來知られてゐたよりも、もつと廣い範圍に人類の幸福を増加し得るであらう。(同前第一二號より)

一第五頁より續く
學究としての生活は、一八九一年から二年まで一箇年間、コーネル大學 (Cornell University) の、經濟學助手を勤めたこと、一九〇六年から一〇年まで、サンフランシスコのスタンフォード大學 (Stanford University) に、經濟學教授として勤めたことを除けば、他は全部シカゴ大學 (University of Chicago) で費されてゐる。一八九二年、シカゴ大學經濟學の Fellow として、シカゴ生活を始めてから、一九〇六年シカゴ大學總長から解職されるまで、十四箇年間の春秋を、湖畔の塵部で暮したのである。スタンフォード大學を辭してからは、ニューヨークに移轉し、雜誌 The Dial を經營し、同雜誌をして、The New Republic 及び The Nation と相並んで、米國智識階級の進歩的分子の意見を代表する、最も高級にして、而も有力なる言論機關ならしめた。

- 1. The Theory of the Leisure Class—1899.
- 2. The Theory of Business Enterprise—1904.
- 3. The Instinct of Workmanship—1914.
- 4. Imperial Germany and the Industrial Revolution—1915.
- 5. Vested Interests—1919.

最近に、又新著が發表されたやうであるが、今記憶しない。尙ほ教授は、一八九六年から一九〇五年まで十箇年間、米國で最も有力な經濟雜誌で、シカゴ大學經濟學部の機關雜誌である、The Journal of Political Economy の managing editor であつたので、經濟學、社會心理學に關する論文は非常に多い。(完)

本學擴張基金寄附申込者芳名

(校友の部)

イロハ順

備考 一口金五拾圓

四	口	同二三法	佐中米藏氏	一	口	同	崎原好仁氏	一	口	同商	木本猛夫氏	一	口	同	三國信一氏
一	口	同	佐佐木靜吾氏	一	口	同	榊原貞則氏	一	口	同九法	木下一男氏	一	口	同九法	滿田清四郎氏
一	口	明二九法	佐藤義道氏	一	口	同商	佐佐木大助氏	二	口	同商	菊地十一郎氏	一	口	同六法	宮本巖氏
一	口	同	櫻井傳氏	一	口	同	澤田正雄氏	一	口	同	木下嘉一郎氏	四	口	同五法	三輪忠邦氏
一	口	同	佐佐木造氏	一	口	同	澤山勳兵衛氏	一	口	同	北村三郎氏	一	口	同三法	右田忠吉氏
一	口	同	阪西由藏氏	一	口	同	櫻本義雄氏	一	口	同	北村三郎氏	二	口	同	光島伴治郎氏
一	口	同	上利一郎氏	一	口	同	佐佐木音滿氏	一	口	同	木村與吉氏	四	口	同	宮本高次氏
一	口	同	淺沼彦次氏	一	口	同二法	澤田新藏氏	一	口	同	木下清一郎氏	一	口	大二經	水田猛男氏
一	口	同	淺井德次郎氏	一	口	同	佐倉井茂造氏	一	口	同八法	木村佐太郎氏	六	口	同四五法	水谷嘉太郎氏
一	口	同	栗田豐國氏	一	口	同	佐賀實氏	二	口	同七法	木下林三郎氏	一	口	同三八法	三原弘氏
一	口	同	有住奠氏	一	口	同	阪本七兵衛氏	一	口	同四法	木曾義重氏	二	口	同三六法	三橋國松氏
一	口	同	赤木重雄氏	一	口	同	佐脇利吉氏	五	口	同三三法	北山義衛氏	二	口	同四一法	南莞爾氏
一	口	同	有光一氏	二	口	同	佐藤禮三氏	一	口	同四二法	清成五六郎氏	一	口	同三九法	宮幸助氏
一	口	同	安藤友晴氏	一	口	同	佐藤福松氏	一	口	同三九法	木村常三郎氏	二	口	同	湯原慶太郎氏
一	口	同	有田保氏	一	口	同	齊藤政廣氏	一	口	同三八法	菊地勳氏	五	口	同	宮崎繁太郎氏
一	口	同	新菊三氏	一	口	同	佐佐木小四郎氏	一	口	同	木村龜太郎氏	二	口	同	道端常次郎氏
一	口	同	有村直二氏	一	口	同	齋藤政廣氏	一	口	同	木下幸平氏	一	口	同	弓庭元一氏
一	口	同	近江仁氏	一	口	同	阪田廣氏	八	口	同	木本龜太郎氏	二	口	同	木村檜太郎氏
一	口	同	赤井貫二郎氏	一	口	同	佐藤賴壽氏	一	口	同	木下重次郎氏	六	口	同	北村儀三郎氏
一	口	同	天野平一氏	一	口	同	佐野廣治氏	二	口	明二八法	菊池金次郎氏	一	口	同	京谷龍藏氏
一	口	同	安藤藤綱氏	二	口	同	櫻井收次郎氏	二	口	同	澤田泰逸氏	一	口	同	木村小次代氏
一	口	同	麻田友三郎氏	二	口	同	境田連吉氏	一	口	同	猿丸貞治氏	一	口	同	木下直文氏
一	口	同	赤松茂氏	一	口	同	佐具虎夫氏	一	口	同	澤田多門氏	一	口	同	貴志房廣氏
一	口	同	安藤章二氏	一	口	同	阪之上新次郎氏	一	口	同	佐藤孝好氏	一	口	同	木澤才藏氏
一	口	同	安藤周藏氏	四	口	同	佐古信三氏	一	口	同	澤井吉雄氏	一	口	同	肝付兼富氏
一	口	同	天野美郎氏	一	口	大三法	齋藤太輔氏	一	口	同	佐佐木重之助氏	一	口	同	北岡醇平氏
一	口	同	天野貞夫氏	一	口	同四四法	佐藤兵二氏	一	口	同	佐田倉藏氏	一	口	同	喜始種一氏
一	口	同	天野貞夫氏	一	口	同四二法	佐藤木惣一氏	一	口	同	佐田清氏	一	口	同	清藤矢八郎氏
一	口	同	備考 一口金五拾圓	七	口	同三八法	佐藤增吉氏	一	口	同	佐野俊夫氏	一	口	同	北山捨丸氏
一	口	同	三〇	三	口	同	作間耕逸氏	一	口	同	坂元照彦氏	一	口	同	木下修治氏

口	同	三輪靜太郎氏	一	口	同	三矢暉吉氏
口	同	三野壽雄氏	一	口	同	宮崎久樹氏
口	同	水島仙太郎氏	三	口	同	島田菊次郎氏
口	同	三木春藏氏	二	口	同	白石次郎氏
口	同	峰新造氏	一	口	同	下田潔氏
口	同	宮坂淺次郎氏	一	口	同	新免峯彦氏
口	同	三原正常氏	二	口	同	信田芳氏
口	同	溝端龜吉氏	四〇	口	同	白川朋吉氏
口	同	三野巖氏	一	口	同	勝賀野鹿衛氏
口	同	三木孝治氏	一	口	同	堀野覺治郎氏
口	同	三谷茂次氏	二	口	同	志野覺治郎氏
口	同	三宅謙一氏	三	口	同	芝田政治氏
口	同	宮野宗一氏	二〇	口	同	進藤紫朗氏
口	同	宮浦要氏	一	口	同	志水政信氏
口	同	三輪又右衛門氏	一	口	同	生次壽男氏
口	同	三好千太氏	二	口	同	代谷誠一氏
口	同	南仙玉氏	六	口	同	白井誠氏
口	同	三島律夫氏	一	口	同	柴武三氏
口	同	宮井茂雄氏	一	口	同	澁谷正俊氏
口	同	源三郎氏	一	口	同	清水郡造氏
口	同	箕浦秀之助氏	一	口	同	下許保正氏
口	同	三輪一郎氏	一	口	同	堀田親雄氏
口	同	三宅通夫氏	一	口	同	白須賀芳彦氏
口	同	水谷小二郎氏	一	口	同	島田幾造氏
口	同	三木富三郎氏	一	口	同	鹿田信太郎氏
口	同	三宅富三郎氏	一	口	同	品川芳松氏
口	同	水口光造氏	一	口	同	柴田勇助氏
口	同	三村福一氏	一	口	同	篠原武治氏
口	同	見浪廣治氏	一	口	同	清水榮松氏
口	同	宮本五郎氏	二	口	同	芝野庄太郎氏
口	同	見村賢治氏	一	口	同	下村宗二氏
口	同	溝手二二氏	一	口	同	新道茂樹氏
口	同	水谷彰一氏	一	口	同	(以下後報)

關西大學フランス研究會會則

第一條 本會ヲ關西大學フランス研究會ト稱ス
 第二條 本會ハフランス文化ヲ研究シ併セテ日佛
 間ノ學問的關係ヲ一層増進スルヲ以テ目的トス
 第三條 本會ハソノ事務所ヲ關西大學千里山學舍
 内ニ置ク
 第四條 本會ハ左記ノ會員ヲ以テ組織ス
 イ 正會員
 ロ 特別會員
 ハ 名譽會員
 關西大學學生ニシテ本會ノ目的ニ賛同スル者ヲ
 以テ正會員トス
 關西大學教職員及校友ニシテ本會ノ目的ニ賛同
 スル者ヲ以テ特別會員トス
 本會ニ特別ノ關係アル者ヲ名譽會員ニ推ス
 第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 イ 會長 一名
 ロ 副會長 一名
 ハ 幹事 若干名
 ニ 評議員 若干名
 第六條 會長及副會長ハ特別會員中ヨリ互選ヲ以
 テコレヲ定ム
 幹事ハ正會員中ヨリ互選ヲ以テコレヲ定ム
 評議員ハ名譽會員中ヨリ會長コレヲ推薦ス
 第七條 役員ノ任期ハ一ケ年トス 但シ再選スル
 コトヲ得
 第八條 本會ノ事業左ノ如シ
 イ 雜誌及書籍ノ發行
 ロ 雜誌及書籍ノ翻譯
 ハ 劇ノ研究及實演
 ニ 講演
 ホ ソノ他本會ノ目的ヲ達成スルニ必要ナル
 事業
 第九條 正會員及特別會員ハ會費トシテ年額金貳
 圓ヲ納付スルモノトス
 右佛譯

STATUTS

Société Française à l'Université de Kansai
 de la
 Article 1. La Société prend le nom de
 "Société Française à l'Université de
 Kansai".

Article 2. La Société a pour but d'encou-
 rager l'étude de la civilisation française
 et de favoriser le développement des
 relations académiques entre la France
 et le Japon.

Article 3. Le siège de la Société sera
 établi à l'Université de Kansai à Senni-
 yama.

Article 4. La Société se compose de :—
 1) Member Actifs,
 2) Membres Spéciaux,
 3) Membres d'Honneur.

Article 5. Seront Membres Actifs les étu-
 diants de l'Université de Kansai, qui ad-
 hèrent au but de la Société.
 Seront Membres Spéciaux les profes-
 seurs, les gradués et les officiers de
 l'Université de Kansai.

Seront Membres d'Honneur les person-
 nes de haute distinction, auxquelles ce
 titre aura été spécialement offert par la
 Société.

Article 6. Le bureau de la Société se com-
 pose de :—
 1) un Président,
 2) un Vice-Président,
 3) un certain nombre de Secrétaires,
 4) un certain nombre de Conseillers.

Article 7. Le Président et le Vice-Président
 seront élus parmi les membres spéciaux.
 Les Secrétaires seront élus parmi les
 membres actifs.

Les Conseillers seront choisis par le
 Président parmi les membres d'honneur.

Article 8. La durée des fonctions du Prési-
 dent, du Vice-Président, des Secrétaires
 et des Conseillers est d'un an, ils seront
 rééligibles.

Article 9. Les oeuvres de la Société
 seront :—
 1) Publication des revues et des livres,
 2) Traduction des ouvrages,
 3) Représentation dramatiques,
 4) Organisation des conférences,
 5) D'autres oeuvres qui seront neces-
 saires pour réaliser le but de la Société.

Article 10. Les Membres Actifs et les
 membres Spéciaux payeront une conti-
 nation annuelle de deux yen.

學生彙報

千里山野球部報

春季リーグ戦 昨秋、京都同志社大學、神戸關西學院高等部及び本學ミの間にリーグ戦の聯盟が創られ、その第一回リーグ戦が昨年十月十一月に亘つて行はれたことは、當時報道して置いた通りであるが、今回その第二回リーグ戦を大阪毎日新聞後援の下に行ふことになつた。

第一回戦は四月二十六日午後二時から同志社大學校庭に於いて同大學對本學の試合になつてゐたが、都合によつて中止になつた。

第二回戦關西學院對本學の試合は、同二十九日午後三時半から關西學院グラウンドに於いて舉行、球審高田、壘審家倉兩氏の下に本學先攻にて開始したが、關學軍よく防ぎ、よく攻め結局十三對寮のスコアで本學側大敗した。

福島學友會幹事選出

本年度福島學友會幹事並に役員は各選舉の結果左の如く決定した。

幹事長	(法三) 綾木茂太郎
文藝部長	(商三) 岡本勇
運動部長	(經三) 富田英雄
總務部長	(法三) 藤本龜
同	(商三) 古郡恒雄
同	(經三) 石川鶴藏
同	(法三) 森脇秀正
同	(經三) 杉山志敏
同	(商三) 酒井實雄

文藝部員

同	(法二) 奥野秀吉
同	(同) 野阪眞三
同	(同) 松井慶次郎
同	(經二) 三宅万吉
同	(商二) 香西政一
同	(同) 石田三郎
同	(同) 淺野繁造
同	(豫科) 山室茂雄
同	(同) 川野政平
運動部員	(法三) 桐野準平
同	(經二) 山口重雄
同	(豫科) 松井宏

福島筑豊郷友會

四月二十六日午後七時から開會、會長吉松俊之助(法三)、幹事衛藤忠男(法三)、藤井梅太郎(商二)、結田英一郎(文一)諸君の役員を決定した後左の決議をなし、茶菓に興を添へつつ懇談を重ねて散會した。

- 一、夏期九州遊説
- 一、五月十一日六甲登山
- 一、前年度會務及會計報告

オリムピック第二豫選出場

過般東京で開かれた萬國オリムピック大會出場選手權に對する第二豫選大會に出場すべく本學陸上部は去る四月八日部長櫻井教授、副マネージャー竹割眞之助君引卒の下に上京したが、次の如き好成绩を擧げて歸阪した。

金田格(經三)ハイ・ハードル一等〇〇・ハドル三等

中尾好太郎(大豫)ハンマー二等

岸源左衛門(大豫)八百米三等

永田敏清(大豫)ハンマー三等

雜錄

大學豫科入學試驗問題

別項所報、本學年度大學豫科入學試驗問題は左の通りである。

英文和譯(二時間)

- Students are expected to hold to the strictest standards of honesty in all their relations to the University. Dishonesty of any sort in these relations is considered a serious offense.
- Man is sometimes more generous when he has little money than when he has plenty, perhaps to prevent his being thought to have but little.
- An Englishman is slow in making friends, but, at the same time, it rarely happens that he does not prove faithful to them when once made.
- There are cases where men with exceptional ability have won tremendous financial success without a college education. Also, many a college man has failed. But, the average is greatly in favour of the college man. He has the better chance to succeed.

和文英譯(二時間)

- 京都には年中遊覽の客が多く、實にその数は日本の巴里である。
- 彼は近代語にばかりでなく、ギリシヤ語及びラテン語にも精通してゐる。
- 入學試験は四月七日日曜日始まり、同九日水曜日に終る、而して同十二日土曜日には體格検査がある。

英語書取(三十分)

Statistics based on materials gathered

from the experience of 100 business houses and covering a period of three or four years, show that about 90 per cent. of the college men were successful in rising to large salaries and responsible position as compared with 25 per cent. of the non-college men.

作文(三時間)

社會と個人(文體隨意)

代數(二時間)

- 二輪車ニテ半町ノ道ヲ行キタルニ後輪ハ前輪ヨリモ六廻轉ガク多ク廻轉セリ若シ各輪ノ周圍ガ之ヨリモ一尺五寸長カラズニハ前ト同ジ道ヲ行ク間ニ後輪ハ前輪ヨリモ四廻轉多ク廻轉ス可シト云フ前輪ト後輪トノ周圍如何
- ax^2+bx+c ナル二次三項式ヲリ

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$
 此式ノ値ハ 0 トナリ又 $x=2$ ト置クトキハ 此式ノ値ハ 37 トナルト云フ此三項式ヲ求メ

(3) $2x^2 + m^2 + n^2 = 1$

$$l^2 + m^2 + n^2 = 1 \quad \text{且ツ} \quad \frac{l}{l} = \frac{m}{m} = \frac{n}{n}$$

ナラザルトキハ $l^2 + m^2 + n^2 < 1$ ナルコトヲ證セヨ

商業算術(二時間)——商業學校卒業生ニ對シ

- 商人アリ物品ヲ賣リテ2割5分ノ損ヲナセリ然ルニ其物品ノ原價ガ2圓安カラバ前ノ代價ニ賣リテモ2割5分ノ利益アルベシト云フ此物品ノ原價如何
- 大阪A商ハ倫敦B商ヨリ振替ヲラレタル額面 2560-4-S 1924/1/9 振出シテ月別利率年5%ノ利付ヲ形ヲ2/29ニ引受ケ満期日ニ支拂ハントス其支拂高何程トナルカ
 大阪倫敦 郵便日數60日

大隈倫教 參着(豫想) 2/5 5/16

(3) 米穀積ノ原價 ¥4,500 = ヌテ使用年限10ヶ年
 廢物價格 ¥300 ↓見積ル時ノ毎決算期 = 於テ
 ヲ知知高同種トナルカ年金法 = ヲリテ計算セ
 ヲ 決算ノ毎半年 利率年10%
 備考

$$\frac{1}{1.05^{20}} = 0.37688948$$

$$\frac{1}{0.5} \times \left(1 - \frac{1}{1.05^{20}}\right) = 12.46221034$$

會計學の研究

— 渡米する校友西村勝太郎氏 —
 大正九年度經濟學科出身の西村勝太郎氏が今
 回會計學研究の目的
 を以て渡米すること
 は別項所報の通りで
 あるが、一日同氏は
 宮島事務理事に挨拶
 のため來學した序に
 學報局を訪れ、少時
 談話を交へた後辭し
 去つた。



西村勝太郎氏

父竹三郎氏を校主と
 する私立淀之水女學
 校を創設し、爾來着
 着校運の發展を見つ
 つあつたが、本春更
 に高等女學校令に依
 る淀之水高等女學校
 を新設し、右兩氏と
 も益校務に執筆しつ
 つある。同校には、右兩氏の外、本學校友栗
 田豊國(大一二商)氏も教諭として教鞭をま
 つつあり、今回又高等女學校新設と共に、本
 學教授小泉幸治氏が、その校長として校務を
 統べることになつた。

『私が會計學を研究するやうになつた動機
 ですが——別にこれ云ふ程のことはあり
 ませんが、兎に角學校を出て銀行等に勤め
 て居ますと、實際の必要から會計學をやつ
 て見たいと思ふやうになつたのです。あち
 らへ渡れば當分カリフォルニアあたりで語
 學の素地を作り、それからワシントン大學
 へでもはいらうかと思つてゐます。何でも
 ワシントン大學には有名な會計學の教授が
 居るさうですから……。こちらへ歸つてか
 らは——さうですね、出來れば會計士の事

務所でも開きたいと思つてゐます。日本で
 も矢張りさう云ふ機關が將來益必要になり
 ませうし、さう云ふ傾向は一面に於いて望
 ましい傾向ですから……。』
 つつましく口を閉じた氏の眼差に希望の光が
 溢れてゐる——かくて、四月の二十七日、午
 後八時五十何分の急行で氏は望み多い身心
 を横濱まで運んで行つた。

本學出身者に依り創立 せられた淀之水女學校

昨年四月、本學校友吉川太三郎(大一二經)、
 糸島實太郎(同)兩氏が主となり、吉川氏の嚴

歐米の旅より歸りて

關西大學指定洋服商 長谷爲五郎
 長谷屋號店主

昨年の十月六日に神戸を出發して同二十二日にシ
 ャトルに上陸し、ウィクトリア、バンクーバー、
 タコマ、ポートランド、サクラメント、サンフラ
 ンススコ、ロスアンゼルス等の西海岸に於ける日
 本人發展の跡を仔細に訪れ、それよりシカゴ、ニ
 ューヨーク、ワシントン、ボストン、フィラデル
 フィア等、米國著名の都市を訪問して更に歐洲に
 渡り、英のロンドン、佛のパリ、白のブラッセル、
 アントワープ、蘭のヘーグ、ロッテルダム、ホレ
 ンダム、獨のハンブルグ、ベルリン、奥のウイー
 ン、伊のヴェニス、ネーブルス、ボンペイ、ロー
 マ、ゼノア、瑞のベルン、ジュネーブ、佛のリヨ
 ン、マルセイユ、ニース、モンテカルロ等の順序で
 旅行を續け、本年三月二十九日神戸へ無事歸着す
 るまで、てうご六ヶ月かかりました。尤もトーマ
 ス・クック社のやうな世界一週旅行の團體では、四
 ケ月で凡そこれに似た行程を取つてゐるやうであ
 りますが、私は單獨に出かけて、自分の思ふ儘に
 行動し、思ふままに見物し、思ふままに研究もす
 る云ふ風であつたから、自然時日も多く費した
 ことになりませんが、見物旅行としては、先づこの
 位で十分のやうに思ひます。

百聞一見に如かずと云ふ、私はこの旅行について、
 色色の方面に、幾多の教訓を得たことを喜んでお
 りますが、その最も大なるものは、關西大學の使
 命を帯びて、世界各地の大學十七校を歴訪し學位
 服、教授服、學生服等から、寄宿舎の制度、運動
 部の組織、給品部の設備等に至るまで、仔細に比
 較研究することが出來たと云ふことでありませう。
 大學から遙遙特派されて來たと云ふので各地の大
 學に於ても、懇切丁寧に色色の資料を興へて呉れ
 て、門外漢の私にも歐米の大學について、多少批
 評の出來る知識を得たことは全く望外の賜であり

ました。それと共に日本に於ける關西唯一の大學
 の特派として、歐米各地に於て、畑達の知己友人
 の出來たことも亦その大きな賜の一であります。
 アメリカの大學は、御承知の通り、官立大學より
 も私立大學の方が遙かに聲望もあり、設備等も遙
 かに整ふてゐる。この邊は日本とは全く反對で、
 學士の肩書でも、日本では東大とか京大とか官立
 を誇るに比べて、米國ではエールとか、ハーヴァ
 ードとか、或はコロムビアと云ふやうに、私立大學
 の肩書を尊ぶ風があります。米國の富豪などは、
 私立大學のために争ふて多額の寄附金等をなし、
 團體も亦大學のために基金を送ると云ふ風に、そ
 の國の大學を大事にすることは想像以上です。官
 立が國家の力を藉るのに反して、比較的微弱であ
 るべき私學のために、吾も人も金を投じ、力を
 添へるためにかう云ふことになるのであらうと思
 ひます。學問には官尊民卑はない筈です。

歐米の大學が、宏大なる敷地と、輪奐たる校舍と
 豊富なる基金とを有することは、誠に羨しい次第
 で現にコロムビアなどは、ニューヨークの市内に
 廣大なる敷地と建物とを有し、基本金何千萬弗と
 云ふやうにその設備の至れり盡せりは、正に當然
 のことと思ひます。

多くの大學の中で、設備の整ふてゐるのは米國の
 ワシントン大學の如きもその一つでありませう。
 尤も洲立ではあるが、學校が新しいだけそれだけ、
 最新式とも云ふべき變つた新設備が澤山あります
 未だ完成してゐなかつたが運動場の如きも、確に
 有数のものであると思ひます。
 授業に就ても、學生は一日の中、午前又は午後
 三時間づつ授業を受ければよいことになつてゐる
 から、就業の傍ら大學に通ふ便宜もあれば、又そ
 の餘の時間は圖書館等に於て終日自習することも
 出來、東部の大學に比べて非常に便利なことと
 思ひます。
 ケンブリッジやオックスフォードのやうに、米國

關西大學校友ソノ他關係者各位へ

●千里山學報維持費トシテ、校友ソノ他關係者各位カラ續續多額ノ御出捐ニ預リ有難ク幾重ニモ御禮申上ゲマス。

●何時モ申上ゲテキマヌ通リ、出來ルナラバ每號無料デ御配付申上ゲルノガ本意デアリマスガ、今ノトコロドウシテモ各位ノ御援助ニ俟タナケレバ、到底發行ヲ續ケテ行クコトノ出來ヌ状態ニアリマスノデ、遺憾ナガラ不遠慮ニト言フヨリモ寧ロ進ンデ御寄捐ヲ仰イデキル次第、何卒惡シカラズ御諒恕ヲ願ヒマス。

●金額ハ各位ノ御志ニ委セル外ゴザイマセンガ、大體年額貳圓位御寄捐願ヘマスレバ收支相償フ旨申添ヘテ置キマス。

●從來御出捐願ヘナカツタ方ニ、コノ際何分ノ御援助ヲ御願ヒ申シ上ゲマス。ソシテ新タニ御出捐下サル方ハ、御手數デスガ左ノ申込書ヲ御切り取り下サツテ、金額ナリ拂込方法ナリ適宜御書入ノ上御送付願ヒマス。

●尚ホ、一年以上繼續御送申上ゲテ井ル方デ、今尚ホ御出捐ガナク、且ツ維持費ニ付テ何等ノ御通報ニモ接シナイ方ハ、或ハ送付先ニ現住サレナイノデハナイカト存ジマスカラ、今後發送ヲ見合セルコトニ致シマス。

大正十三年五月

關西大學學報局

千里山學報維持費拂込申込書

年度 科 名 貴

金額

一金

拂込方法

振替貯金又ハ郵便爲替

集金郵便

(何れか一方を抹消して下さい)

でもエール、ハーヴァードなどは、學問よりも人格を作る云ふ點に力を注いで、學生の風儀等に就ても従つて喧しく、學生各自も亦大いに自重し、「自分はエールの學生である」とか、「ハーヴァードの學生である」とか云ふことを、誇りとしてゐるやうに見えます。又大抵の大學には舞踏の練習場があり、中にはステージの設備のある大學も見受けました。

ケンブリッジ、オックスフォードは、何れも古い學校で、昔はロンドン郊外の森林中に在つたのであるとも聞きました。今では立派な街になつて學校もその軒並びにある云ふ風であります。然し、一度裏へ廻つて見ると、幽邃なる森林もあり、小山もあつて、全く學問の土地であります。我關西大學も、この點では、歐米各大學の所在地に比して、少しも遜色のない千里山に在つて、而も日と共に發展して行くのを喜ばしく思ひます。ただ、關西に於ける、公共心に富んだ多くの富豪が、歐米のそのやうに、この大學の發展に大いに力を添へられんことを祈つてやみません。

(學生彙報續き)

千里山陸上競技部報

▲新春の猛練習 四月三日京阪沿線寢屋川グラウンドに於て、大朝主催の下に開催された東西對抗競技大會及び同月十二、十三兩日東京駒場に於て開催せられた萬國オリムピック大會第二豫選兼全日本選手權大會に出場準備のため、去る三月十六日から一週間同部員は寢屋川グラウンドに於て猛練習を續けた

▲東西對抗競技大會に參加 前記大朝主催の東西對抗競技大會に際し同部の金田格、岸源左衛門兩君が大坂方代表選手に推薦された。

▲法政大學陸上競技部主將歓迎會 右大會終了後、同部では法政大學主將小川良三氏歓迎會を、北濱灘萬ホテル別室で開催、櫻井

部長その他部員一同出席し、法政大學と本學との對校マッチ開催等につき懇談を交へた。

▲萬國オリムピック大會第二豫選大會兼全日本選手權大會出場 四月十二、十三日東京駒場に於て開催せられた右大會に、同部では櫻井部長及び竹割副マネージャー引率の下に、左記四選手を出場せしめたが、何れもその活躍目覚ましく、全部入賞し、殊に金田、岸兩君は當然バりに派遣せらるべき資格を得たが、種種の事情のため、遺憾ながら内地に止ることを餘儀なくされた。

高障礙一等、低障礙三等—金田格君、八百メートル競走三等—岸源左衛門君、ハンマー投二等—中尾好太郎君、同三等—永田敏清君

(本記事は第二十四頁のそれと重複する點もあるが、編輯締切後に報道があつたので、態まこの儘にして置く)

▲法政大學陸上競技部との定期戦 本學千里山、福島兩陸上競技部合同で、法政大學定期對校競技を行ふこととし、その第一回を大阪朝日新聞社後援の下に來る五月三十一日午前十時から(晴雨不論)、市立グラウンドに於て開催する筈につき、一般學生諸君の熱烈な應援を希望するのこころである。

▲本年度第一回幹部會 四月二十日午前九時から中之島中央公會堂小集會室に於て開催、部員十数名出席の下に、(一)對法政大學陸上競技會開催の件、(二)新入生に關する件、(三)本年度豫算に關する件等につき協議し、役員改正に移り、部長に櫻井教授、主將に福田義美君、副主將に岸源左衛門君、マネージャーに野原修五郎君、副マネージャーに竹割實之助君等の留任を決議し、更に副マネージャーに小林龍君、學校マネージャーに松川一男君を推薦し、四時半閉會した。

新刊紹介

最新書翰文作法及文範

關西大學幹事兼講師 木下孫一著

近頃の青年學生の多くは、一般に西洋文明の攝取に吸吸して日もこれ足らぬ有様である。このことは我國の現状から言つて、誠に已むを得ぬことではあるが、然しその結果として、青年學生に國語漢文の力が著しく減退し、殊に日常生活に缺くことの出来ぬ往復文さへ満足に書けないと云ふのは、今日のところ、未だ決して喜ぶべき現象であるとは言へない。勿論新しい人達は、その思想が進歩するに従つて、用ひる言葉、文字、文章等も同様に進歩するのは當然であるが、然しさう云ふ進歩した人達は極く少數で、全體としての社會は、さう急に新しくなるものでも、進歩するものでもない。従つて、どんなに新しい人でも、その

日常生活に於ては、多くの古い人達と伍し、古い人達と交つて行くことは避け得ないことである。この意味に於て、社會生活上必要缺くことの出来ない手段である書翰文の作法を教へ、體裁を示す本書の如きは、現實の問題として非常に望ましい述作である。

著者は、曾て本學に於て法律學を専攻し、業を卒業後尙ほ母校に在つて、研究を重ねるに共に、専心本學の教務に執掌しつゝある人である。元來文筆に多くの趣味を有し、殊に數年來の作文教授の實際に當つて、かくの如き述作が現代の緊切な要求に應ずるものであることを痛感し、一度「最新書翰文要義」なる書を上梓したが、更にその後これを修補正して、本年四月漸くその成るを見たのが本書である。

遣便覽、同訓異字便覽、書翰文資料格言及諺、書翰文資料和歌、書翰文用便覽等は、更に一層の便益を讀者に提供してゐる。(定價金貳圓、大阪市北區上福島北三丁目、關西書院出版部發行)

訂正新らしい言葉の字引

服部嘉香・植原路郎共編

人間生活の諸體様は、一見永久不變の如く見ゆるものであるが、然し事實は決してさうでなく、常に變化し、進轉するものである。吾人が日常生活する言語の如き殊にさうである。各方面に於ける吾人の生活内容が豊富を加へ、複雑さを増すに従つて、新しい意味を與へられて復活した舊時代語、新事物の發現のために新しく生れた新時代語等、所謂「新しい言葉の數が、常に目まぐるしいまでに吾人の眼前に現れて来る。現在の新聞雜誌等に見出されるもののみでも、如何に博學多識の人でも、到底その總てを理解することは出来ないであらう。況んや人皆それぞれ専門の業務、研究に

關西關西甲種商業大學 指定

洋服商

長谷屋號

大阪市上本町六丁目
電話南四五一二番
振替大阪五五三八番

今宮支店 ● 釣鐘町支店

關西關西甲種商業大學 指定

難波洋服店

大阪市西區京町堀上通
電話土佐堀二六三番

關西關西甲種商業大學 指定

文明堂

野島書店

大阪市北區上福島北三丁目
電話土佐堀二一八六番
振替大阪三九九九番

不許複製

大正十三年五月十二日印刷
大正十三年五月十五日發行

編輯兼發行人 辰巳經世

印刷者 飯田彌之助

印刷所 鐵三有社

發行所 關西大學學報局

大阪市北區上福島北三丁目

舊學舎 關西大學

電話土佐堀(一〇四九)五五七〇

大阪市外千里山

新學舎 關西大學

電話吹田一二三

大阪地方裁判所判事 竹野竹三郎著

破産法講話

四六版紙布上製箱入
紙數三百八十頁餘
定價金拾貳圓
内地送料金拾貳圓

本書は破産法大家として、實務と理論に精通せる著者が破産法全般に亘り特に口語體を以て平易簡明を旨とし其要點を洩す所なく説明せられたるものにして然も法律研究者及實際家に専ら便ならしむる爲隨所に必要なる書式を挿入し卷末に破産法條文を添へ猶關係事項いは索引を附したれば實に斯法の好參考書として無二のものたるべきを信す。

大阪地方裁判所判事 竹野竹三郎著

和議法原論

菊判脊皮上製箱入
紙數四百頁餘
定價金拾四圓五拾錢
内地送料金拾八圓

和議法は破産法と姉妹法である、破産法は概れ債權者保護であるに反して和議法は債權者の福音であつて破産を豫防する爲に破産に類せる債權者が總債權者との間に裁判上の手續に依りて債務整理に關する強制契約(少數債權者の不承諾を制して)を締結する事を得る最新法律である。著者は大阪法術に於て破産部及和議部兼任の重職に位し斯法に造詣深き新進の學者として又實際家として令聞高き士に破産法原論の大著を公にし今亦本書を完成せらる、本書は特に著者多年の經驗を緯とし其精研の學理を經として實際的及理論的問題の細大を洩さず之を網羅して明快なる解説を與ふ。殊に其理論的體系の組織たるを定に完整を極め推賞の外ない、紙數四百餘頁を算し斯法の參考書として現代斯學の權威である。

法學士 辯護士 入江真太郎著

辯護士道德論

四六判總クロス上製箱入
紙數二百四十頁餘
定價金貳圓四拾錢
内地送料金拾貳圓
送料(壺内) 參拾錢
送料(壺外) 四拾五錢

法曹界の新人にしてかてて眞學なる爲學者として知られた著者が曩に北米の大學に遊んだ結果齎したのが本書である、本書は識者に發して我國從來の法律教育が只法律解釋學に没頭して法律立法學や法律運用學や、さては法律道德學を全然忘却した態度に就て其猛省を促すと共に世人に對して法律道德學の内容に關して具體的に其何者たるかを示して居る、本書は法律に關與する立法官司法官又は辯護士に對してのみならず一般世人にも興味あるものたるは勿論である。

千里山學報 第十九號

稻森啓造著
商業登記手續總攬
定價金五圓八拾錢
送料金拾八錢

稻森啓造著
不動產登記法釋義
定價金六圓
送料金拾八錢

稻森啓造著
耕地整理登記手續
定價金參圓五拾錢
送料金拾八錢

稻森啓造著
特別登記手續
定價金四圓八拾錢
送料金拾八錢

中安作次編
登記法令輯攬
定價金七圓五拾錢
送料金拾八錢

藤江政太郎著
特許法要論
定價金貳圓五拾錢
送料金拾貳錢

藤江政太郎著
商標法要論
定價金貳圓五拾錢
送料金拾貳錢

川端巖編
特許法令集
定價金貳圓五拾錢
送料金拾貳錢

鈴木、小野共著
供託法釋義
定價金參圓五拾錢
送料金拾貳錢

北村三郎著
國稅徵收手續
定價金四圓五拾錢
送料金拾貳錢

山崎、小竹共著
競賣法手續
定價金參圓五拾錢
送料金拾貳錢

奧戶善之助著
法律講話集
定價金貳圓五拾錢
送料金拾貳錢

平尾廉平著
手形法講話
定價金貳圓八拾錢
送料金拾貳錢

島山豐吉著
銀行簿記
定價金貳圓四拾錢
送料金拾貳錢

浦添爲宗著
民法大要
定價金壹圓八拾錢
送料金拾貳錢

浦添爲宗著
商法大要
定價金壹圓九拾錢
送料金拾貳錢

浦添爲宗著
商用文指針
定價金九拾五錢
送料金拾貳錢

文信社編
高等試驗模範試驗問題集
定價金貳圓
送料金拾貳錢

大曾根 巖松堂大飯店

巖松堂大飯店

電話北一五六三
振替大阪一三九二七

無駄な外交の費用を省いて

大阪市東區上本町九丁目
停留所前

樺山洋服店

電話南六六九番

店主 樺山 誠一

うんとお安く致します

關西大學 御用達
關西甲種商業

大阪市東區南久寶寺町二丁目

ミツワ文具發賣元

文具商 古幸温知堂本店

電話船場二四九一番

振替大阪二六三四番

越三の月五

光美會工藝品展覽會 六一日より

自由畫壇試作品展覽會 六二日より

小早川秋聲氏作畫展覽會 十八日より

福島氏盛花會 十九日より

足利織物陳列會 十一日より

里昂陶器展覽會 十八日より

竹村秋峯氏臺灣寫生畫展覽會 十九日より

大阪工業俱樂部寫真展覽會 十九日より

信濃橋洋畫研究所展覽會 廿一日より

高島北海氏作畫展覽會 二十日より



三越呉服店

◆ 販 大 ◆